

IEEE 東京支部 50年の歩み

Fifty Years of IEEE Tokyo Section

2006年3月1日

IEEE 東京支部

IEEE 東京支部 50年の歩み

Fifty Years of IEEE Tokyo Section

目次

[I] 沿革

1. 概要
2. IEEE東京支部の創立と組織の基盤構築(1955-1974)
3. 輪番制による企業の支援体制と財政基盤の確立(1975-1997)
4. 8支部体制への移行と新時代に向けての飛躍(1998以降)

[II] 特記事項

1. 歴代役員
2. 会員状況
3. Chapter の状況
4. Student Branch
5. 主要行事(支部総会、支部主催講演会、Society Meeting)
6. 各種受賞(Medal、Award、Milestone など)
7. 本部役員、Region/Division Directors、Society President
8. 出版物(でんし Tokyo、会員名簿、Tokyo Bulletin)

[附]

IEEE Organization

執筆 大野栄一 (Eiichi Ohno)

IEEE Japan Council 理事、IEEE History Center Trustee

IEEE 東京支部 50年の歩み

[I] 沿革

1. 概要

IEEE 東京支部 (IEEE Tokyo Section) は 1955 年暮 IRE 東京支部として創立され、1963 年に IRE と AIEE が合併して IEEE が発足したことに伴い IEEE 東京支部と改称したものである。会員数は創立当初の 50 名から順調に増加し、1969 年には 1,106 名、1988 年には 5,544 名となり、1998 年には 10,010 名、2004 年末には 12,253 名を数えるに至っている。

その間、創立後間もない 1958 年に MTT(Microwave Theory and Techniques) Tokyo Chapter が設立されたのを皮切りに、現在までに全国で 45 の Chapter が設立されて、それぞれの専門分野において国際交流を含む活発な活動を展開している。

支部の運営についても、1975 年から幹事会社輪番制が実施されて順調な発展を続けてきた。さらに、関係者の努力により 1996 年からは支部運営費として Section Assessment が導入され、財政基盤がより強固なものとなった。

1998 年には、会員数の増加に伴い、各地の状況に合わせたきめ細かな会員へのサービス提供と、わが国における IEEE 活動の一層の活性化を目指して、札幌、仙台、名古屋、関西、広島、福岡、四国の 7 つの新支部が設立され、関東・甲信越を対象とすることとなった東京支部と併せて全国 8 支部体制に移行した。翌 1999 年には Japan Council が設立されて、支部間の交流と調整を図るとともに、更なる発展に向けての活動が始まっている。

今回の東京支部創立 50 周年は、日本における IEEE 組織の沿革からも明らかなように、現在の東京支部のみならず、全日本の IEEE 関係者にとっての慶事であり、喜びを共有したいと願う次第である。

	主要事象	全会員数
1955(S30)	IRE 東京支部創立(12月)	50名
1956(S31)	第1回理事会開催(2月6日)	72名
1958(S33)	MTT Tokyo Chapter 設立	222名
1959(S34)	でんし Tokyo 創刊	252名
1963(S38)	IEEE 東京支部に改称	573名
1969(S44)	会員 1,000 人を超える	1,106名
1975(S50)	幹事会社輪番制開始	1,915名
1996(H8)	Section Assessment 導入	9,186名
1997(H9)	独立事務所開設	9,454名
1998(H10)	全国 8 支部体制発足	10,010名
1999(H11)	Japan Council 設立	10,375名
2000(H12)	Tokyo Bulletin No.1 発行	10,867名
2003(H15)	Boston Section と姉妹関係締結	11,853名
2005(H17)	IEEE 東京支部創立 50 周年	12,703名

2. IEEE東京支部の創立と組織の基盤構築(1955-1974)

創立時期について現存する最も古い記録である1959年3月発行の「でんしTokyo」創刊号に、“The Tokyo Section was organized in October, 1955 and in December of the same year it was officially recognized by the Board of Directors at IRE headquarters.”と記され、設立時の役員として支部長八木秀次、副支部長丹羽保次郎らの名が残されている。

また、IRE東京支部の創立からIEEE東京支部へ名称変更を含む初期の経緯について、1970年の会員名簿の「IEEE Tokyo Sectionの沿革」では以下のように述べられている。

「1955年に25名の署名を得て、IRE Tokyo Sectionの設置を本部に申請、同年暮承認創立された。当初75名であった会員数も年とともに漸増し1958年には220名、1966年には865名、1969年には1,000名を越えるに至った。その間1963年にはIREとAIEEが合併してIEEEとなり、本会名称もIEEE Tokyo Sectionとなった。Tokyo Sectionという名前は、米国においては支部があるCity名を用いることになったものであるが、実際には日本の支部である。(以下略)」

1972年の会員名簿からはその説明が次のように少し変っている。「IEEE東京支部は、IRE東京支部として1956年に創立された。この前年、G. W. Bailey氏、Ernst Weber教授などのすすめにより、蓑妻二三雄氏が中心となって、IRE東京支部創立の発起人会が作られ、25名の署名を得て本部に申請、同年暮承認された。翌1956年2月6日、IRE東京支部第1回役員会が開催され、支部として正式に発足したものである。」

戦後10年を経過した1955年には経済自立5ヵ年計画がスタートし、1956年には国連へ加盟するなど、わが国としても復興に向けての基盤整備が進むとともに、新しい戦後の世界に向けて夢を膨らませた時代であった。この時期に、初代支部長の八木秀次氏に次いで、丹羽保次郎氏、古賀逸策氏など国際的な視野を持った先覚者たちを中心に、日本の技術者のレベルを高め国際化を進める組織として、IEEE東京支部の活動が始まったことは誠に時宜を得たものであったと言えよう。また、2代目の支部長であった丹羽保次郎氏は1958年にIRE本部のVice Presidentに選任されて活躍されている。

その頃、本部において専門技術別組織としてSocietyが誕生したのに呼応して、東京支部にもそれらに対応したChapterが次々と結成されている。東京支部会員名簿(1994年)の巻末にある「IEEE東京支部の概要と沿革」には以下のように記されている。

「1958年に最初のチャプターとしてMTTが設立されたが、'64年にはPE、'67年にはC、'70年にはEMB、'71年から'72年にかけてED、CAS、BTR('76年にBCCEと改称、さらに'83年にBTとCEとに分割)およびAPがそれぞれ設立された。また、'73年にはCOM、IA、IM、'74年にはSMCおよびEI('86年DEIと改称)が設立された。」

(略称などChapterの状況については[II]3参照)

これらのChapterは対応するSociety Conferenceでの英文論文発表の奨励や、国内学会との共同研究会など、活発な活動を推進し組織の活性化に貢献して来ている。代表例として、東京オリンピックの年1964年の9月にはICMCI(Int'l Conference on Microwave, Circuit and Information Theory)が東京において参加者940名(内海外260名)を得て開催されるなど、国際化も大きく進展したことが伺える。(Densi Tokyo 第5号)

この間、わが国の経済は高度成長の真只中に突入し、特に電気・電子・情報関連技術のウエイトが高まるのに合わせて、IEEE 東京支部の会員数も急速に増加し、その活動も年を追って活発化してきた。支部運営の中心には企業・大学・研究所のTopとして活躍中であった錚々たる面々が当り、支部発展の基礎が固められた。創立以来 1974 年までの間では、国際電電、横河電機、沖電気、に加えて日本電気、日本放送協会、ソニーなどの組織からの強力な支援が得られ、大学関係者との協力体制が確立された。

3. 輪番制による企業の支援体制と財政基盤の確立(1975-1997)

1970 年代には、ドル・ショック、オイル・ショックを乗り越えてわが国の経済は発展を続けたが、その基幹となった技術の進歩も目覚ましいものがあった。IEEE東京支部においても引き続き会員の順調な増加と国内外の諸活動の多彩化が進んだ。

Chapter についても新設が続いた。すなわち、前記のIEEE会員名簿巻末の記事にその後の状況を補足した動きは下記の通りである。

「1975 年にPHP('78 年に CHMT、'94 年に CPMT と改称)、'77 年にMAG、'79 年に VT、'80 年にEMC、'81 年にNPS、E、IT、CS、'82 年にGRS、ASSP('91 年にAPと改称)、IE、SP、'83 年にSIT、SU('86 年にUFFCと改称)、R、'86 年にはLEO、'90 年にはPEL、RA、'91 年にはAESが設立された。」その後、'96 年にはOE、'97 年にはEM、さらにその後 '98 年にSSC、'04 年にCISと設立が続いた。([II] 3 参照)

これらの Chapter 設立と並行して、それぞれの専門分野での Society との交流が一層活発化し、海外で開かれたIEEEの技術会合に参加し発表する日本人会員が増加してきた。また、1984 年には Industrial Electronics Society の年次総会である IECON'84 が東京で開催されたのを始め、1986 年には Int'l Conf. on Acoustics, Speech, and Signal Processing が 1364 名(内海外 710 名)の参加を得て開かれ、1988 年には IEEE と日本ロボット学会(RSJ)の共催による IROS (Int'l Conf. on Intelligent Robots and Systems) が日本発でスタートし、1994 年には R-10 との共催による Asia Pacific Year 1994 Symposium が開催されるなど、多くの主要国際会議がわが国で開かれた。([II] 5 参照)

また、IEEE本部、Region 10、各 Society などの組織の役員として活躍する会員も増え、国際的地位の向上に貢献している。([II] 7 参照)

これらの拡大してきた諸活動に対応したスムーズな支部運営を行うためには、長期的な視点に基づく安定した企業の支援が必要となり、1975 年より東芝、日立、富士通、三菱、日本電気、日本電信電話、国際電電(現在KDDI)、住友電工の8社が中心となって輪番制で幹事会社を引き受ける体制が実施に移された。幹事会社は2年の担当期間中 Chair または Vice Chair と Secretary (2000 年までは Treasurer を兼務)を担当し、社内に事務局を置いて、人的および財政的な負担を背負いながら IEEE 東京支部の活動を支えることとなった。

しかし、1990年代に入り、幹事会社の負担に依存しない自立した財政基盤の確立が喫緊の課題となってきた。当時の理事会において種々検討された結果、支部運営のための特別会費として Section Assessment (25ドル) を会員から徴収することが提案された。関係者の努力によって1995年9月の臨時総会における賛同を経て本部の承認が得られ、翌年1996年から導入された。これにより幹事会社に依存しないで、会員の負担による財政基盤の確立が実現し、支部運営をより活発に行うことが可能となったのである。

その成果の第一は、永年の懸案であった独立事務所の開設である。すなわち1997年初から現在の西新橋のオフィスビルの1室を借り、「IEEE 東京事務所」が居を構えることとなった。以後2年毎の事務所移転による不便から開放されると共に、電子化時代の要請に応えるためのインターネット関連システムを中心とした設備投資も行われて、各種の会員サービスも強化・充実された。財政基盤の確立によって進展した2番目の大きな課題は東京支部の分割と新支部の設立であるが、これについては節を改めて述べる。

また、この間に国内学会との連携も進められ、会員の相互援助を目的とした Mutual Agreement が、下記の9つの国内関連学会と締結され現在に至っている。

(社)電気学会、(社)電子情報通信学会、(社)電子情報通信学会・通信ソサイエティ、
(社)照明学会、(社)情報処理学会、(社)映像情報メディア学会、(社)応用物理学会、
(社)計測自動制御学会、研究・技術計画学会

4. 8支部体制への移行と新時代に向けての飛躍(1998以降)

会員数の増加により表面化してきたもう一つの大きな課題は支部の分割であった。東京支部設立40年後の1996年には会員数1万人に迫り、世界のIEEEの中でも上位から数番目の大きなSectionとなってきた。また、Region 10の中でも、インドやオーストラリアなど一国で複数のSectionを抱える国も多く、支部の分割が論議の対象となってきた。

1997年に入り理事会で新支部設立に向けての検討が始まり、翌1998年2月に新支部設立検討委員会の初会合が開かれた。当初5分割が検討されたが進むにつれて各地区から積極的な反応が得られ、最終的に札幌(北海道)、仙台(東北)、名古屋(東海・北陸)、関西(関西)、広島(中国)、四国(四国)、福岡(九州・沖縄)の7支部を新設する案が纏まった。1998年11月にIEEE本部の承認を得た後、翌年にかけてBylawsを制定し各新支部が相次いで発足した。この結果、東京支部は関東・甲信越地区を担当することとなった。

8支部体制への移行に伴い、各支部の活動を支援するとともに日本全体としての問題を扱う組織の必要性が感じられ、各支部と本部の承認を得て、1999年6月にJapan Councilが新設された。ただし、地域活動の主体となる組織はあくまでもSectionであるとのIEEE Bylawsの規定に従い、CouncilはSectionの活動支援に徹した運用が行われている。

8支部体制への移行は、地域活動の主体であるSectionと専門技術分野の活動を司るSocietyの交点であるChapterにも大きな影響を与えることとなった。本来Chapterはそれぞれの支部に置かれるべきであるが、新Chapterの設立には最低12名の会員の署名に

よる申請が必要なことなど、短期間での移行は困難が予想されたので、新体制への移行に伴う経過的措置として、従来の Tokyo Chapter を Japan Council の所属に移し Japan Chapter とする措置が採られた。設立条件を満たしたのから順次新しい Section Chapter を設立することが勧められた結果、各支部に 9 の Chapter が生まれ、Japan Council の 36 と合わせて現在全国で 45 の Chapter が存在し活動している。([II] 3参照)

このような Chapter の運営や Section Assessment の扱いなどに関して、8 つの支部と Japan Council が協力して適切な運用を行うことが必要となる。その際、最大の会員数を持つ東京支部の役割が特に重要であるので、Tokyo Section の Secretary と Treasurer は Japan Council の同職を兼務し、併せて西新橋のオフィスは、Tokyo Section と Japan Council 両者の事務局としての機能を果たすこととなっている。

また、8 支部体制の誕生により各地方の事情に応じた自主的な運営展開が可能となり、会員へのサービスの向上が図られている。各支部の運営方針はそれぞれの理事会にて審議・決定され、常設委員会(Standing Committee)において具体化され、積極的な活動を行っている。共通する主な活動は、年 1 回の支部総会、IEEE Award 受賞者記念講演会、内外の著名な学者・技術者を招待しての講演会の開催、IEEE Fellow 推薦の支援、会員への情報配信サービス等が挙げられる。また、現在全国で 17 校ある Student Branch を中心とした学生活動の支援も活発に行われている。([II] 4参照)

東京支部では会員への情報提供と情報交換の場として、メール配信による "IEEE Tokyo Bulletin" (日本語および英語)の発行が 2000 年 5 月からスタートし、年に 5, 6 回の発行を重ねて 2005 年 10 月の 28 号に至っている。([II] 8参照)

さらに 8 支部体制となったことにより、支部代表として Region 10 や本部の Section Congress へ参加する人員も一挙に 8 倍に増えて、わが国の IEEE 活動の国際化にとっても大きな活性剤となっている。また、Region 10 の役員や Society President を始め、IEEE 組織の中核部で活躍する会員も増加しており、IEEE 全体の国際化進展に貢献している。

最近では歴代 IEEE President の日本訪問も恒例化しており、相互理解と協調の一層の増進に寄与している。

最近の動きとして、2002 年 10 月に Tokyo Section と Boston Section との姉妹関係が結ばれ、Student Branch の交流などの活動が始まっている。また、2005 年 5 月に女性技術者の集いである Women In Engineering(WIE) Affinity Group が Japan Council に結成されるなど、新しい時代に向けての飛躍が始まっている。

創立 50 年を経た IEEE 東京支部が、今後も益々の発展を続けて行くことを期待する。

[謝辞] 「50 年の歩み」作成に際して、岡村総吾氏、田子島一郎氏、中原恒雄氏に面談をお願いし貴重な情報を提供いただいた。また、IEEE Japan Council, Tokyo Section に関係する多くの方々からご協力・ご支援を賜ったことに心より感謝申し上げる次第である。

[II] 特記事項

1. 歴代役員

- ◇ 1956年～2006年度 東京支部役員
[データⅡ-1-1]……10ページ参照
- ◇ 1999年～2006年度 Japan Council 役員・理事表
[データⅡ-1-2]……11ページ～12ページ参照

2. 会員状況

- ◇ 全日本のIEEE会員数の変遷とグレード別構成
[データⅡ-2-1]……13ページ参照
- ◇ 各支部の会員数の状況（2005年度末）
[データⅡ-2-2]……14ページ参照

わが国の Fellow 会員は全会員の約4%で、IEEE平均の2倍に近いことが特記される。

3. Chapterの状況

- ◇ Chapter 会員数（2005年度末）
[データⅡ-3] ……15ページ参照

4. Student Branch

- ◇ Student Branch のある支部と大学（2005年度末）

支部名	大学名
札幌支部	北海道大学
仙台支部	東北大学
東京支部	慶應義塾大学、東京大学、東京工業大学、横浜国立大学、 武蔵工業大学、東京電機大学
名古屋支部	静岡大学、名古屋大学
関西支部	大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学
広島支部	山口大学
福岡支部	熊本大学
四国支部	香川大学

Student Branchは、20名以上の Student Member と Counselor の先生が居られれば設立できるので、さらに多くの学校の参加が望まれている。

5. 主要行事(総会、講演会)

- ◇ 東京支部をはじめとする各支部の主要行事リスト
[データⅡ-5-1] ……16ページ～45ページ参照
- ◇ Society の主要行事リスト
[データⅡ-5-2] ……46ページ～49ページ参照

6. 各種受賞

- ◇ IEEE本部関連受賞者リスト
[データⅡ-6] ……50ページ～52ページ参照

Medals 18 人、Awards 62 人、Honorary Member 5 人、Corporate Recognition 3 社、Milestone 5 件を数える。

なお、わが国が寄与している賞として下記がある。

- Masaru Ibuka Consumer Electronics Award(1986～)
- Koji Kobayashi C&C Award(1986～)
- Junnichi Nishizawa Medal(2004～)

また、Edison Medal は 1992～2001 の 10 年間、日立、東芝、三菱がスポンサーとなった。

- ◇ IEEE Third Millennium Medal

世紀への移行を記念して、IEEE活動に貢献のあった会員を表彰するもので、94 名の日本在住会員に授与された。

受賞者名は Tokyo Bulletin 1号(2000 年 5 月発行)に記載されている。

↓

http://www.ieee-jp.org/section/tokyo/bulletin/2000/no01_0331/medal.htm

http://www.ieee-jp.org/section/tokyo/bulletin/2000/no01_0331/medalothers.htm

7. 本部役員、Region/Division Directors、Society President

Vice President

丹羽保次郎	IRE Vice President	1958
-------	--------------------	------

BoD/ExCom Secretary

植之原道行	1985-1986	中原恒雄	1996
原島文雄	1990		

BoD : Board of Directors, ExCom : Executive Committee

R-10 Director、Division X Director*

島茂雄	1968	野村達治	1971-1971
新川浩	1975-1976	中原恒雄	1993-1994
菅野卓雄	1999-2000	竹内精一	2005-2006
福田敏男*	2001-2002		

Region Director および Division Director は任期中BoD Member を務めている。

Society President

原島文雄	Industrial Electronics Society	1986-1987
池上徹彦	Lasers and Electro-Optics Society	1992
羽根田博正	Industrial Electronics Society	1996-1997
福田敏男	Robotics and Automation Society	1998-1999
今井秀樹	Information Theory Society	2004
谷江和雄	Robotics and Automation Society	2004-2005
岩井洋	Electron Devices Society	2004-2005

上記の他にも多くの方々がIEEE Foundation, Award Board, History Center や、それぞれの Society など各種のIEEE組織で活躍されているが、今回は上記の範囲に留めた。

8. 出版物(でんし Tokyo、会員名簿、Tokyo Bulletin)

◇ でんし Tokyo と Tokyo Bulletin

[データⅡ-8] ……53ページ参照

- 1) でんし Tokyo: 会員への情報提供と併せてわが国における最新の電気・電子技術を海外にも紹介する目的で、英文雑誌「でんし Tokyo」が1959年に創刊され、ほぼ毎年1回の発刊が1994年の第33号まで続いた。判明している主な保管場所は、IEEE東京事務所に第11号～第33号、東北工業大学図書館に創刊号～第27号(ただし第15号を除く)である。
また、国会図書館には全巻のマイクロフィッシュが保存されており、次の請求番号で閲覧できる。[YA5-F5; 第1号-第11号、Z54-C314; 第12号-第33号]
- 2) 東京支部会員名簿: IEEE東京事務所には1966年版から1994年版までが残されている。1970年版から巻末にIEEE東京支部の沿革に関する記事が収められているが、1994年版の「IEEE東京支部の概要と沿革」が最も参考になる。
- 3) Tokyo Bulletin: 2000年5月からは、会員への情報提供と会員相互の交流促進の場としてメールマガジンの形で発行されており、2005年10月で28号に達している。
- 4) Home Page: 最近の状況を含む東京支部の概要は下記を参照下さい。
<http://www.ieee-jp.org/section/tokyo/shibu/gaiyo.htm>

東京支部歴代役員
(役員当時の所属先)

幹事会社	在職期間	Chair	Vice Chair	Secretary	Treasurer
なし	1955-56	八木 秀次(八木アンテナ)	丹波 保次郎(東京電機大学)	蓑妻 二三雄(郵政省)	
	1957-59	丹羽 保次郎(東京電機大学)	古賀 逸策(国際電電)	蓑妻 二三雄(郵政省)	
	1960-61	古賀 逸策(国際電電)	友田 三八二(横河電機)	蓑妻 二三雄(郵政省)	
	1962-63	友田 三八二(横河電機)	森田 清(沖電気)	蓑妻 二三雄(郵政省)	
	1964-65	森田 清(沖電気)	友田 三八二(横河電機)	岡田 喬(沖電気)	
	1966-68	小林 宏治(日本電気)	大槻 喬(東海大)	武田 行松(日本電気)	
	1969-70	野村 達治(日本放送協会)	西野 治(東京大学)	田子島 一郎(日本放送協会)	
	1971-72	新川 浩(国際電電)	山村 昌(東京大学)	大島 信太郎(国際電電)	
	1973-74	島 茂雄(ソニー)	岡村 總吾(東京大学)	塚本 哲男(ソニー)	
東芝(1967)	1975-76	阪本 捷房(東京電機大学)	蠣崎 賢治(東芝総研)	中川 隆(東芝総研)	
日立	1977-78	高木 昇(日大)	久保 俊彦(日立)	平井 忠正(日立)	
富士通	1979-80	小島 哲(富士通)	喜多村善一(摂南大)	黒川 兼行(富士通)	
三菱電機	1981-82	菅田 栄治(大阪電通大)	喜連川 隆(三菱電機)	横浜 博(三菱電機)	
日本電気	1983-84	緒方 研二(日本電気)	植之原 道行(日本電気)	宮城 嘉男(日本電気)	
日本電信電話	1985-86	岡村 總吾(学振)	城水 元次郎(日本電信電話)	加藤 満左夫(日本電信電話)	
国際電電	1987-88	大島 信太郎(国際電電)	中込 雪男(国際電電)	野坂 邦史(国際電電)	
住友電工	1989-90	宇都宮 敏男(東京理科大)	中原 恒雄(住友電工)	竹内 精一(住友電工)	
東芝	1991-92	猪瀬 博(学術情報センター)	永井 淳(東芝)	三国 良彦(東芝)	
日立	1993-94	菅野 卓雄(東洋大学)	武田 康嗣(日立)	石岡 祥男(日立)	
富士通	1995-96	末松 安晴(工学院大学)	戸田 巖(富士通)	大賀 寿郎(富士通研)	
三菱電機	1997-98	熊谷 信昭(原子力安全シ)	大野 栄一(三菱電機)	片木 孝至(三菱電機)	
日本電気	1999-2000	辻井 重男(中央大学)	佐々木 元(日本電気)	森野 明彦(日本電気)	
日本電信電話	2001-2002	茅 陽一(RITE)	鈴木 滋彦(日本電信電話)	小柳 恵一(日本電信電話)	堀 洋一(東大)
KDDI	2003-2004	安田 靖彦(早大)	村上 仁己(KDDI)	松島 裕一(KDDI→NICT)	瀬崎 薫(東大)
住友電工	2005-2006	原島 文雄(東京電機大)	畑 良輔(住友電工)	林 秀樹(住友電工)	橋本 秀紀(東大)

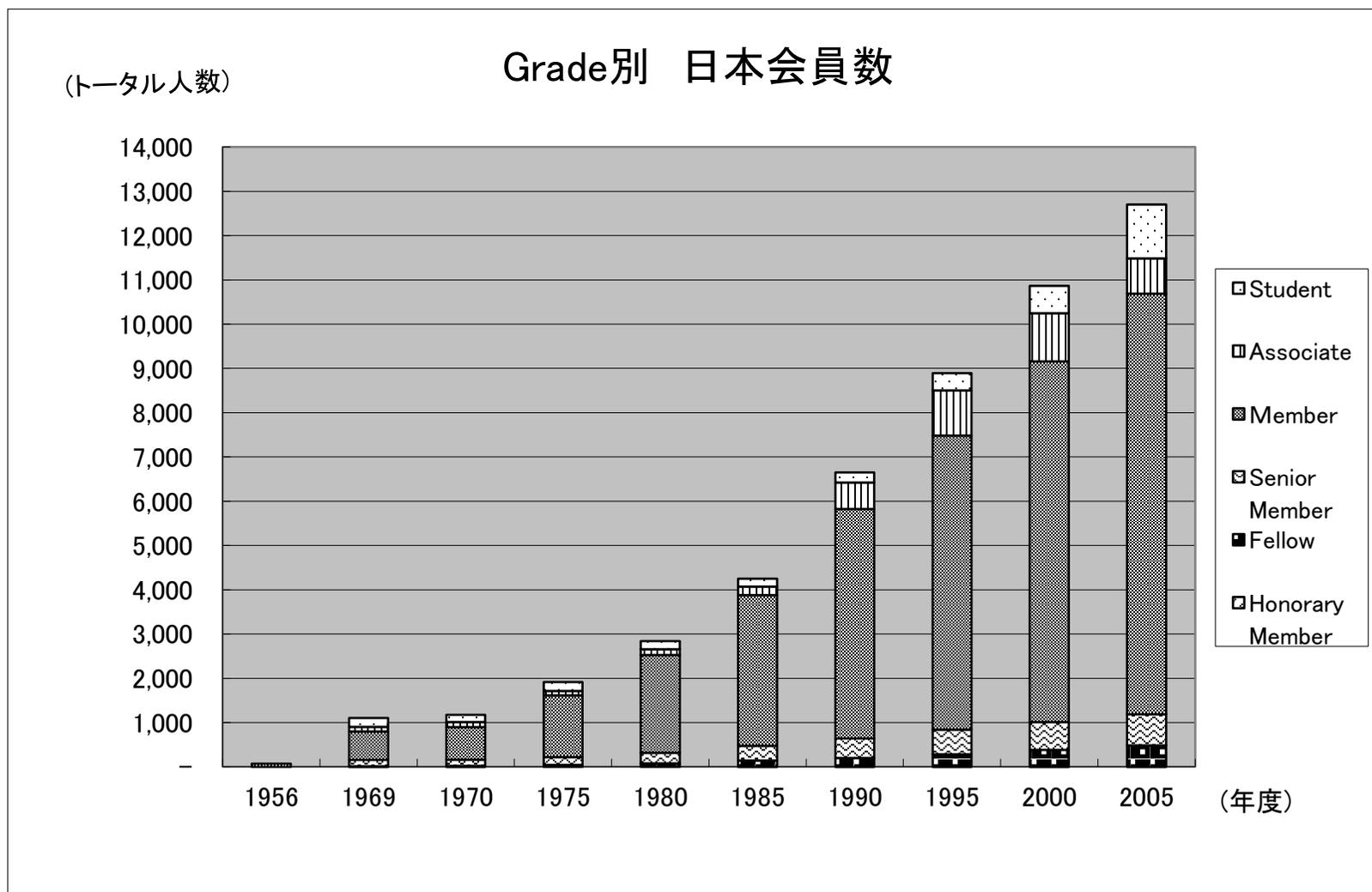
Japan Council 歴代役員
(役員当時の所属先)

	在職期間	1999年	2000年	2001年
役員	Chairman	熊谷 信昭 (大阪大学)	熊谷 信昭 (大阪大学)	中原 恒雄 (住友電工)
	Vice Chairman	大野 榮一 (三菱電機)	大野 榮一 (三菱電機)	樋口 龍雄 (東北大学)
	Secretary/Treasurer(兼任)	森野 明彦 (日本電気)	森野 明彦 (日本電気)	小柳 恵一 (日本電信電話)
	Treasurer			堀 洋一 (東京大学)
各支部代表	札幌支部	伊藤 精彦 (北海道大学)	伊藤 精彦 (北海道大学)	土谷 武士 (北海道大学)
	仙台支部	樋口 龍雄 (東北大学)	佐藤 利三郎 (環境電磁技術研究所)	
	名古屋支部	水谷 照吉 (名古屋大学)	水谷 照吉 (名古屋大学)	稲垣 康善 (名古屋大学)
	関西支部	白川 功 (大阪大学)	中原 恒雄 (住友電工)	石井 健一郎 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所)
	広島支部	雛元 孝夫 (広島大学)	市川 忠男 (比治山大学)	粟井 郁雄 (山口大学)
	四国支部	田崎 三郎 (愛媛大学)	酒井 士郎 (徳島大学)	秦 清治 (香川大学)
	福岡支部	牛島 和夫 (九州大学)	牛島 和夫 (九州大学)	西 哲生 (九州大学)
	東京支部	辻井 重男 (中央大学)	辻井 重男 (中央大学)	茅 陽一 (地球環境産業技術研究機構)
	東京支部	佐々木 元 (日本電気)	佐々木 元 (日本電気)	鈴木 滋彦 (日本電信電話)
	東京支部	森野 明彦 (日本電気)	森野 明彦 (日本電気)	小柳 恵一 (日本電信電話)
東京支部	片木 孝至 (三菱電機)		堀 洋一 (東京大学)	
Standing Committee	Chater Operation			東倉 洋一 (NTT 先端技術総合研究所)
	Student Activities			相澤 清晴 (東京大学)
理事会承認理事				大野 榮一 (三菱電機)
				森野 明彦 (半導体先端テクノロジーズ)
本部及びRegion10役員		中原 恒雄 (住友電工)	中原 恒雄 (住友電工)	福田 敏男 (名古屋大学)
		菅野 卓雄 (東洋大学)	菅野 卓雄 (東洋大学)	原島 文雄 (東京都立科学技術大学)
		竹内 精一 (東京電機大学)	竹内 精一 (東京電機大学)	菅野 卓雄 (東洋大学)
		西原 明法 (東京工業大学)	西原 明法 (東京工業大学)	竹内 精一 (東京電機大学)
				西原 明法 (東京工業大学)
			羽根田 博正 (神戸大学)	

Japan Council 歴代役員
(役員当時の所属先)

	在職期間	2002年	2003/2004年	2005/2006年
役員	Chairman	中原 恒雄 (住友電工)	辻井 重男 (中央大学)	長尾 真 (情報通信研究機構)
	Vice Chairman	稲垣 康善 (名古屋大学)	池田 博昌 (東京情報大学)	多田 邦雄 (金沢工業大学)
	Secretary/Treasurer(兼任)	小柳 恵一 (日本電信電話)	松島 裕一 (情報通信研究機構)	林 秀樹 (住友電工)
	Treasurer	堀 洋一 (東京大学)	瀬崎 薫 (東京大学)	橋本 秀紀 (東京大学)
各支部代表	札幌支部	土谷 武士 (北海道大学)	青木 由直 (北海道大学)	北島 秀夫 (北海道大学)
	仙台支部	西澤 潤一 (岩手県立大学)	西澤 潤一 (岩手県立大学)	樋口 龍雄 (東北工業大学)
	名古屋支部	稲垣 康善 (名古屋大学)	大熊 繁 (名古屋大学)	藤原 修 (名古屋工業大学)
	関西支部	石井 健一郎 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所)	白川 功 (大阪大学)	小山 正樹 (奈良先端科学技術大学院大学)
	広島支部	粟井 郁雄 (山口大学)	角南 英夫 (広島大学)	土屋 敏章 (島根大学)
	四国支部	島村 和典 (高知工科大学)	小野 和雄 (愛媛大学)	矢野 米雄 (徳島大学)
	福岡支部	西 哲生 (九州大学)	生野 浩正 (熊本大学)	二宮 保 (九州大学)
	東京支部	茅 陽一 (科学技術振興事業団)	安田 靖彦 (早稲田大学)	原島 文雄 (東京電機大学)
	東京支部	鈴木 滋彦 (日本電信電話)	村上 仁己 (KDDI)	畑 良輔 (住友電工)
	東京支部	小柳 恵一 (日本電信電話)	松島 裕一 (情報通信研究機構)	林 秀樹 (住友電工)
Standing Committee	Chater Operation	博松 明 (電気通信大学)	石川 元 (富士通研究所)	四元 勝一 (NTT建築総合研究所)
	Student Activities	相澤 清晴 (東京大学)	宮永 喜一 (北海道大学)	青木 孝文 (東北大学)
理事会承認理事		大野 榮一 (三菱電機)	中原 恒雄 (住友電工)	辻井 重男 (情報セキュリティ大学院大学)
		森野 明彦 (半導体先端テクノロジーズ)	小柳 恵一 (日本電信電話)	松島 裕一 (情報通信研究機構)
			堀 洋一 (東京大学)	瀬崎 薫 (東京大学)
本部及びRegion10役員		福田 敏男 (名古屋大学)	原島 文雄 (東京都立科学技術大学)	中原 恒雄 (住友電工)
		原島 文雄 (東京都立科学技術大学)	大野 榮一 (三菱電機)	大野 榮一 (三菱電機)
		菅野 卓雄 (東洋大学)	竹内 精一 (東京電機大学)	竹内 精一 (東京電機大学)
		竹内 精一 (東京電機大学)	西原 明法 (東京工業大学)	平栗 健二 (東京電機大学)
		西原 明法 (東京工業大学)	羽根田 博正 (神戸大学)	雁部 洋久 (富士通研究所)
		羽根田 博正 (神戸大学)	山本 幹 (大阪大学)	山本 幹 (大阪大学)

IEEE日本会員数(1956年より各5年毎)



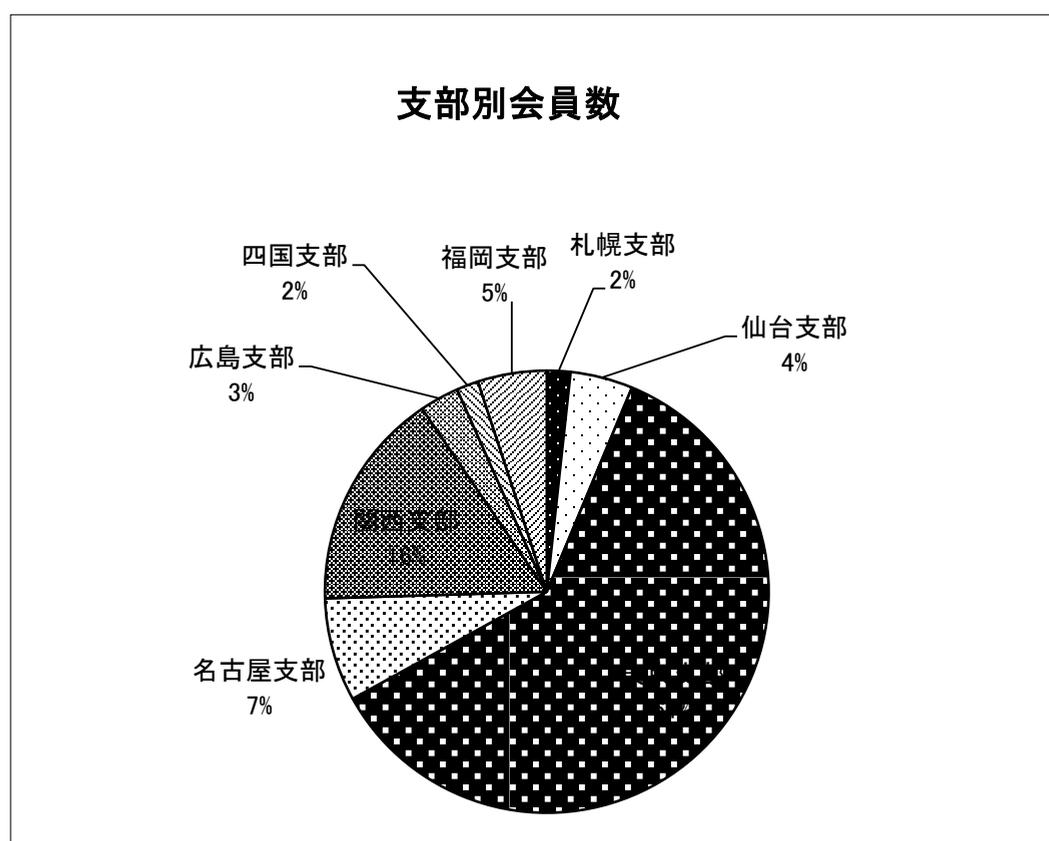
Year	Honorary Member	Fellow	Senior Member	Member	Associate	Student	Total
1956				72			
1969	1	18	140	642	107	198	1,106
1970	1	21	145	735	109	168	1,179
1975	0	46	173	1,400	99	197	1,915
1980	0	79	242	2,206	131	186	2,844
1985	1	144	331	3,404	197	172	4,249
1990	1	202	441	5,183	600	223	6,650
1995	1	288	552	6,643	1,021	387	8,892
2000	1	386	628	8,147	1,083	622	10,867
2005	3	480	711	9,494	800	1,215	12,703

注：Affiliate会員は含まない。

IEEE 各支部別 会員数

(2005年12月31日現在)

支部	Honorary Member	Fellow	Senior Member	Member	Associate	Student	Total
札幌支部	0	2	14	154	11	37	218
仙台支部	0	32	32	414	30	71	579
東京支部	2	326	467	5,856	541	516	7,708
名古屋支部	0	27	37	719	70	108	961
関西支部	0	68	99	1,468	76	320	2,031
広島支部	0	9	26	290	18	22	365
四国支部	1	4	8	131	13	46	203
福岡支部	0	12	28	462	41	95	638
合計人数	3	480	711	9494	800	1215	12703



IEEE Chapter 会員

(2004年12月31日現在)

Society Code	Society Chapter Name	東京支部会員数	全国数	創立年
SP-01	Signal Processing Society Japan Chapter	506	914	1982年
BT-02 *1	Broadcast Technology Society Japan Chapter	51	65	1983年
AP-03	Antennas and Propagation Society Japan Chapter	337	524	1971～1972年
CAS-04	Circuits and Systems Society Japan Chapter	412	782	1971～1972年
	Circuits and Systems Society Fukuoka Chapter	—	63	2001年
	Circuits and Systems Society Kansai Chapter	—	140	2002年
NPS-05	Nuclear and Plasma Sciences Society Japan Chapter	84	160	1981年
VT-06	Vehicular Technology Society Japan Chapter	249	352	1979年
R-07	Reliability Society Japan Chapter	64	96	1983年
CE-08 *1	Consumer Electronics Society Japan Chapter	114	157	1983年
IM-09	Instrumentation and Measurement Society Japan Chapter	112	188	1973年
AES-10	Aerospace and Electronic Systems Society Japan Chapter	99	141	1991年
CIS-11	Computational Intelligence Society Japan Chapter	215	481	2004年
IT-12	Information Theory Society Japan Chapter	204	327	1981年
IE-13	Industrial Electronics Society Japan Chapter	147	269	1981年
EM-14	Engineering Management Society Japan Chapter	85	117	1997年
ED-15	Electron Devices Society Japan Chapter	772	1,157	1971～1972年
	Electron Devices Society Kansai Chapter	—	196	2000年
C-16	Computer Society Japan Chapter	1,711	2,792	1967年
	Computer Society Fukuoka Chapter	—	128	2004年
MTT-17	Microwave Theory and Techniques Society Japan Chapter	502	824	1958年
EMB-18	Engineering in Medicine and Biology Society Japan Chapter	230	428	1970年
COM-19	Communications Society Japan Chapter	1,379	1,870	1973年
UFFC-20 *4	Ultrasonics, Ferroelectrics, and Frequency Control Society Japan Chapter	120	209	1986年
CPMT-21 *3	Components, Packaging, and Manufacturing Technology Society Japan Chapter	140	207	1994年
OE-22	Oceanic Engineering Society Japan Chapter	43	70	1996年
CS-23	Control Systems Society Japan Chapter	231	513	1981年
RA-24	Robotics and Automation Society Japan Chapter	278	560	1990年
E-25	Education Society Japan Chapter	64	108	1981年
EMC-27	Electromagnetic Compatibility Society Japan Chapter	131	232	1980年
	Electromagnetic Compatibility Society Sendai Chapter	—	30	2001年
SMC-28	Systems, Man, and Cybernetics Society Japan Chapter	237	500	1974年
GRS-29	Geoscience and Remote Sensing Society Japan Chapter	101	167	1983年
SIT-30	Social Implications of Technology Society Japan Chapter	30	40	1983年
PE-31	Power Engineering Society Japan Chapter	294	481	1964年
DEI-32 *2	Dielectrics and Electrical Insulation Society Japan Chapter	74	150	1986年
	Dielectrics and Electrical Insulation Society Fukuoka Chapter	—	19	2003年
MAG-33	Magnetics Society Japan Chapter	175	347	1977年
IA-34	Industry Applications Society Japan Chapter	170	306	1973年
PEL-35	Power Electronics Society Japan Chapter	155	260	1990年
LEO-36	Lasers and Electro-Optics Society Japan Chapter	536	799	1986年
SSC-37	Solid-State Circuits Society Japan Chapter	573	573	1998年
	Solid-State Circuits Society Kansai Chapter	—	165	2001年

上記のほかに Societyとして PC-26(Professional Communication)があり、日本における会員数は東京支部が19名、全国28名である。

*1 = 1972年にBTRが設立。1976年にBCCEと改称。1983年にBTとCEに分割。

*2 = 1974年にEIが設立。1986年にDEIに改称。

*3 = 1978年にPHPが設立。1978年にCHMTと改称。1994年にCPMTと改称。

*4 = 1983年にSUが設立。1986年にUFFCと改称。

各支部の主要行事

東京支部

東京支部総会

1968年度：1969年2月25日
1970年度：1971年3月19日
1971年度：1972年2月23日（水） 14:00～17:00 機械振興会館 地下2階ホール
1972年度：1973年2月24日（土） 14:00～17:00 機械振興会館 地下2階ホール
1973年度：1974年2月27日（水） 14:00～15:00 機械振興会館 地下2階ホール
1974年度：1975年2月28日（金） 13:30～14:15 機械振興会館 地下2階ホール
1975年度：1976年2月13日（金） 13:30～14:15 機械振興会館 地下2階ホール
1976年度：1977年2月25日（金） 13:30～14:20 機械振興会館 地下3階 研修1会議室
1977年度：1978年2月17日（金） 14:00～14:50 機械振興会館 地下3階 研修2会議室
1978年度：1979年2月9日（金） 14:00～14:50 機械振興会館 地下3階 研修2会議室
1979年度：1980年2月27日（水） 14:00～14:50 機械振興会館 6階 66会議室
1980年度：1981年2月10日（火） 14:00～14:50 機械振興会館 地下3階 研修1号室
1981年度：1982年2月15日（月） 14:00～14:50 機械振興会館 地下3階 研修2号室
1982年度：1983年2月14日（月） 13:30～14:20 機械振興会館 地下2階ホール
1983年度：1984年2月27日（月） 15:00～16:00 機械振興会館 6階 66会議室
1984年度：1985年2月18日（月） 13:30～17:00 機械振興会館 6階 66会議室
1985年度：1986年3月3日（月） 13:30～14:30 機械振興会館 地下3階 研修1会議室
1986年度：1987年2月2日（月） 13:30～14:30 機械振興会館 地下3階 研修2会議室
1987年度：1988年2月19日（金） 13:30～14:15 東京簡易保険郵便年金会館 福寿の間
1988年度：1989年3月1日（水） 13:30～14:15 機械振興会館 地下3階 研修1会議室
1989年度：1990年2月26日（月） 13:30～14:15 機械振興会館 地下3階 研修1会議室
1990年度：1991年3月11日（月） 13:30～14:15 学士会館 202会議室
1991年度：1992年3月5日（木） 13:30～14:45 学士会館 210会議室
1992年度：1993年3月9日（火） 14:00～15:45 機械振興会館 地下2階ホール
1993年度：1994年3月17日（木） 14:00～15:45 学士会館 320会議室
1994年度：1995年3月3日（金） 14:00～15:45 機械振興会館 地下2階ホール
1995年度：1996年2月9日（金） 16:00～17:30 富士通株式会社 川崎工場 本館プレセッションルーム
1996年度：1997年2月20日（木） 15:00～16:30 富士通株式会社 川崎工場 本館プレセッションルーム
1997年度：1998年2月18日（水） 15:00～16:15 三菱電機ビル 9階 92/93会議室
1998年度：1999年2月18日（木） 15:00～16:10 三菱養和会 巣鴨スポーツセンター 4階会議室
1999年度：2000年3月17日（金） 14:30～16:00 NEC 本社ビル 地下1階 会議室
2000年度：2001年3月16日（金） 14:30～16:00 NTT 武蔵野研究開発センタ本館
2001年度：2002年3月14日（木） 14:30～16:00 NTT 武蔵野研究開発センタ本館
2002年度：2003年3月11日（火） 14:30～16:00 新宿 NSビル NSホール

[データⅡ-5-1]

2003年度：2004年3月2日（火） 14:00～15:30 弘済会館 4階 萩の間

2004年度：2005年3月16日（水） 14:00～15:30 弘済会館 4階 萩の間

東京支部主催講演会

1968年度

3月26日 於 機械振興会館 地下2階大ホール 参加者 250名

「The Future of Electrical Communication」 Dr. John R. Pierce 氏 (BTL)

8月12日 於 機械振興会館 地下2階大ホール 参加者 130名

「最近の固体物理の進歩と計算機」江崎玲於奈博士(IBM Yorktown Heights Research Center)

11月1日 於 機械振興会館 地下2階大ホール 参加者 50名

「Computers and the Human Mind」 Dr. Donald G. Fink 氏 (General Manager IEEE)

「IEEEの組織と活動について」 Dr. Donald G. Fink 氏 (General Manager IEEE)」

-----1969年度資料なし-----

1970年度

2月23日 於 機械振興会館

「Fellow 記念講演会」(受賞者：3名)

3月17日 於 電気試験所(永田町) 参加者 30名

「Some Reflections from Canadian Radio Research」 Dr. J. T. Henderson 氏 (元 IEEE 会長)

「A Systems Engineering Approach to Macro Systems」 Dr. H. Chestnut 氏 (IEEE Vice Chairman)

8月19日 於 東京工業大学13号室 参加者 150名

「Accoustic Surface Waves in Microwave Technology」 Prof. A. A. Oliner 氏 (P.I.B)

「New Device for Information Processing at Microwave Frequencies」 Dr. H. L. Hartnagel 氏

1971年度

3月19日 於 機械振興会館

「Fellow 記念講演会」(受賞者：3名)

7月3日 於 機械振興会館 参加者 199名

「Electric Imaging Device について」福井初昭氏 (Bell 研究所)

「アメリカにおけるミリ波およびレーザの研究」 養妻二三雄 (日立)

「Application of waveguide and circuit theory to the development of accurate microwave measurements Methods and standards」 Robert W. Beatty 氏 (NBS)

7月30日 於 機械振興会館 参加者 38名

「ブラッグ回折を用いた医学診断用超音波ホノグラフィ」 Glen Wade 氏 (USLA)

9月9日 於 機械振興会館 参加者 169名

「Today and Tomorrow in Satellite Communication Technologies」 W. L. Pritchard 氏 (COMSAT 研究所)

10月19日 於 機械振興会館 参加者 149名

「Satellite Communication Navigational Aid」 Roy E. Anderson (GE)

[データⅡ-5-1]

1972年度

2月23日 於 機械振興会館 参加者 77名

Fellow 記念講演会 (受賞者: 4名)

4月22日 於 機械振興会館 参加者 113名

「ソニーの歩んできた道」井深 大氏 (ソニー)

5月25日 於 日本電機工業会館 参加者 71名

「The ALOHA System」Norman Abramson 氏 (ハワイ大学)

6月14日 於 東海大学交友会館 参加者 65名

「IEEE-its plans and problems」Robert H. Tanner 氏 (IEEE 会長)

10月4日 於 機械振興会館 参加者 57名

「From Genesis via Darwin: A Solution for Present Day Environmental Problems」

James M. Snodgrass 氏

10月27日 於 機械振興会館 参加者 59名

「Computer Simulation of LSI Approaches」Walter L. Engel 氏 (アーヘン工科大学)

1973年度

2月24日 於 機械振興会館 参加者 51名

Fellow 記念講演会 (受賞者 5名)

「私の歩んだ道」一本松 珠璣氏 (日本原子力発電) 「原子炉計装」西野 治氏 (工学院大学)

「ミリメートル波の大気伝搬について」岡村総吾氏 (東京大学)

「電子剣舞京の開発をめぐる」菅田栄治氏 (工業奨励館)

「雑音と通信理論の研究の進歩」滝 保夫氏 (東京大学)

8月27日 於 機械振興会館 参加者 145名

「IBM 中央研究所の近況について」江崎玲於奈氏 (IBM)

9月10日 於 機械振興会館 参加者 52名

「Launching the Small Astronomy Satellites」Mrs. M. R. Townsend 氏 (NASA Goddard Flight Center)

11月9日 於 機械振興会館 参加者 73名

「高周波用低損失導波線」Prof. H. E. Barlow 氏 (Univ, College, London)

「科学政策と経済成長」Prof. F. E. Jones (Univ, College, London)

11月12日 於 機械振興会館 参加者 34名

「Computer Based Technology Transfer」Prof. R. L. Schiffman (Univ. of Colorado)

1974年度

2月27日 於 機械振興会館 参加者 65名

Fellow 記念講演会 (受賞者 7名)

「Some Historical Review of My Work」B. Hershenov 氏

「回路網研究の回顧」松本秋男氏

「航行エレクトロニクスの研究」岡田 実氏

「科学衛星裏話」齊藤成行氏

「ビデオテープレコーダの開発」沢崎 憲一氏

「リニア誘導電動機の研究」山村 昌氏

「内田英成先生を偲んで」虫明康人氏 (代理 永井 淳氏)

[データⅡ-5-1]

6月25日 於 機械振興会館 参加者 62名

「An Overview of the SOS-CMOS Technology」 「IC Reliability Physics and Analysis Techniques」

Dr. O. D. Trapp 氏 (Technology Associates, USA)

11月27日 於 国際電々研究所 参加者 32名

「Communication, Computers and Society」 Prof. A. karbowski (Univ. of New South Wales, AUS)

12月20日 於 NHK 青山荘 参加者 73名

「最近の欧米の放送技術」 杉本昌穂氏 (NHK 技研)

「海外における衛星放送研究の動向」 松下 操氏 (NHK 技研)

1975年度

2月28日 於 機械振興会館 参加者 30名

Fellow 記念講演会 (受賞者: 9名)

4月28日 於 機械振興会館 参加者 42名 共催: EBM チャプター 協賛: 日本 ME 学会

「System Approach to Respiratory Modeling」 Dr. W. B. Blesser 氏 (Polytechnic Inst of New York)

9月12日 於 東北大学工学部 参加者 35名

「The Inst of Physics of the Polish Academy of Sciences as an example of research organization in Poland」 Dr. Henryk K. Lachowicz 氏 (Polish Academy of Sciences)

10月3日 於 機械振興会館 参加者 34名

「IEEE – its plans and problems」 Arthur P. Stern 氏 (IEEE 会長)

12月2日 於 大阪大学工学部 参加者 59名

「Parallelism in Computers」 Prof. N. R. Scott (Univ of Michigan)

1976年度

2月13日 於 機械振興会館 参加者 52名

Fellow 記念講演会 (受賞者: 7名)

3月19日 於 機械振興会館 参加者 40名

「The Impact of Microcomputer – The Educational Aspect of the Microcomputer Revolution」

Prof. G. A. Korn (University of Arizona)

6月28日 於 大阪大学工学部 参加者 117名 共催: CAS Chapter

「The State – Of – The – Art of Microprocessors」 Prof. I. Lee (UCLA, Berkley)

8月25日 於 日本 IBM 本社 参加者 53名

「On the Computer Communication Networks」 Prof. Norman Abramson (Univ of Hawaii)

11月24日 於 NHK 青山荘 参加者 41名

「Electric Display-Overview Analysis-」 Dr. Edward O. Johnson (RCA 基礎研究所長)

1977年度

2月25日 於 機械振興会館 参加者 40名

Fellow 記念講演会 (受賞者: 5名)

2月28日 於 機械振興会館 参加者 16名

[データⅡ-5-1]

「Innovation in Biomedical Engineering」 W. J. Perkins 氏(National Institute for Medical Researchs)
10月25日 於 日本大学理工学部 参加者 100人 共催：MAG Chapter

「Energy and Power Problems in Telecommunication System」 N. Osifchin, and J.J Suozzi (Bell Lab)
11月30日 於 早稲田大学工学部 参加者 150名 共催：CAS Chapter

「An Approach to the Routing of multilayer Printed Circuit Board」 Prof E. S. Kuh (UCLA, Berkely)

1978年度

2月17日 於 機械振興会館 参加者 50名

Fellow 記念講演会 (受賞者：7名)

10月26日 於 機械振興会館 参加者 40名 共催：ED Chapter

「Semiconductor Industry」 E. Carroll 氏(V.P. Regional activities IEEE)

11月17日 於 東京電機大学 参加者 100名

「Magnetic Fields Produced by the Human Body」 Dr. D. Cohen(MIT)

1979年度

2月9日 2月17日 於 機械振興会館 参加者 37名

Fellow 記念講演会 (受賞者：7名)

5月7日 於 学士会会館 参加者 28名 共催：EMB Chapter

「Health Hazard Appraisal」 Prof. John H. Milsum 氏(ブリティッシュコロンビア大学)

5月30日 於 機械振興会館 参加者 49名

「日本の立場」 井深 大氏 (ソニー) 尾見 半左右氏 (富士通)

9月4日 於 機械振興会館 参加者 123名

「A Perspective on Microelectronics」 President Jerome J. Suran(General Electric Company)

12月12日 於 機械振興会館 参加者 75名 共催：ED Chapter

「超 LSI 技術の展望」 菅野卓雄氏 (東京大学)

1980年度

2月27日 於 機械振興会館 参加者 27名

Fellow 記念講演会 (受賞者：6名)

10月3日 於 機械振興会館 参加者 63名

「The Future of Magnetic Recording」 Dr. Geoffrey Bate (Verbatim Corporation)

10月21日 於 機械振興会館 参加者 83名

「Science and Engineering for a Better World」 President Leo Young (Naval Research Laboratory)

12月4日 於 上智会館 参加者 26名 共催：VT Chapter

「誘導無線通信用伝送線路について」 酒井 洋教授 (上智大学)

12月19日 於 機械振興会館 参加者 29名

「フォールト トラント コンピューティングについて」 当麻 喜弘教授 (東京工業大学)

[データⅡ-5-1]

1981年度

2月10日 於 機械振興会館 参加者 32名

Fellow 記念講演会 (受賞者 : 8名)

4月8日 於 日本電機工業会 参加者 40名

「Acoustical Holography and Imaging」 Prof. Glen Wade (California 大学)

5月19日 於 日本電気協会 参加者 22名

「連想処理について」市川 忠男教授 (広島大学)

9月29日 於 機械振興会館 参加者 54名

「Engineering Challenges for the 1980's」 President Richard W. Damon(Sperry Corp)

12月9日 於 機械振興会館 参加者 112名 共催 : 電子通信学会東京支部

「Speech Coding」 Prof. Robert M. Gray (Stanford 大学)

1982年度

2月15日 於 機械振興会館 参加者 51名

Fellow 記念講演会 (受賞者 : 8名)

6月1日 於 東京大学 参加者 170名 共催 : 日本音響学会、電子通信学会東京支部

「Recent Program in Digital Signal Processing」 Dr. Alan V. Oppenheim(MIT)

7月29日 於 機械振興会館 参加者 136名 共催 : 電気学会東京支部、電子通信学会東京支部、

テレビジョン学会

「30 Years of Microwaves」 Dr. Richard A. Sparks (President of MTT-Raytheon)

「Lasar Applications in Semiconductor Manufacturing」

Dr. W. Arthur Porter(President of MTT-Texas A & M 大)

「Recent Advance in Control Theory and Applications」

Dr. Jones B. Cruz.Jr.(IEEE Vice President -Illinos 大)

「Development in Parallel Processing」 Dr. Oscar N, Garcia (President of COMP-So.Florida 大)

「Distributed Processing and Software Engineering」

Dr. Robert E. Larson(IEEE President-System Control Ltd.)

8月26日 於 東京大学 参加者 53名 共催 : IEEE COMP Chapter

「VLSI System Design」 Prof. Amar Mukhopadhyay (Central Florida 大)

12月3日 於 健保会館 参加者 99名 共催 : 電子通信学会東京支部

「マン・マシン・コミュニケーション」 Prof. J. Nievergelt (チューリッヒ工科大学)

1983年度

2月14日 於 機械振興会館 参加者 63名

Fellow 記念講演会 (受賞者 : 13名)

5月25日 於 東京大学 共催 : 日本音響学会 ASSP 東京チャプタ

「Recent Activities in Digital Signal Processing at MIT」 Prof. Alan V. Oppenheim(MIT)

8月24日 於 機械振興会館 参加者 41名

「The IEEE Today」 Mr. James B. Owens(IEE 会長)

[データⅡ-5-1]

- 「Ray Optical Technique in Engineering Electromagnetics」 Prof. Harry E.Green(Region10Director)
10月6日 於 東京大学 参加者 77名 共催：電子通信学会東京支部 ASSSP 東京チャプタ
「Research Directions in Speech Communication」 Dr. James L. Flanagan(BTL)
10月31日 於 日本電気 参加者 40名 共催：応用物理学会 ED 東京チャプタ
「Photoelectron Spectroscopies Using Synchrotron Radiation」 Prof. Ingolf Lindau(Stanford Univ)

1984年度

- 2月27日 於 機械振興会館 参加者 55名
Fellow 記念講演会 (受賞者：3名)
「半導体事始め」 鳩山道夫氏 (ソニー) 「閉回路テレビジョンの発展」 小郷 寛氏 (千葉大学)
「マイクロ波工学の研究と教育工学の研究の違い」 末武国広氏 (神奈川大学)
11月2日 於 東京大学 参加者 185名 共催：電子通信学会東京支部 ASSP 東京チャプタ
情報処理学会、視聴覚情報研究会
「A New Tide in the Understanding of Speech and Language」 藤村 靖氏 (ATT ベル研)
「Deterministic Sentence Parsing and the Theory of Syntax」 Dr. M. P. Marcus (ATT ベル研)
「A Qualitative Physics」 Dr. J. S. Brown (Xerox PARC)
「Reflective Computational Architectures」 Dr. B. C. Smith(Xerox PARC)
11月2日 於 日本電気 泉華荘 参加者 32名
「IEEE Activities in the Centennial Year and Priority in the Next 100 Years」
Dr. Richard J. Gowen(IEEE 会長)
11月8日 於 健保会館 参加者 79名 共催：電子通信学会東京支部
「Traffic Engineering : Past, Present & Future」 Prof. Arne Jesen (デンマーク工科大学)
「Mathematical Methods in the Queueing Theory : Topics」 Prof. Jacob W. Cohen (ユトレヒト大)
12月6日 於 早稲田大学 参加者 60名 共催：早稲田大学 電子通信学会東京支部
「A Design Methodology for Embedded Computer Systems」
Prof. B. Archie Bowen(カナダ、カールトン大学)

1985年度

- 2月18日 於 機械振興会館 参加者 57名
Fellow 記念講演会 (受賞者：11名)
「統計的解析と制御」 赤池弘次氏 「直流送電の動向」 町田武彦氏
「ガラスの汚損対策について」 藤村哲夫氏 「電波伝搬と通信方式」 池上文夫氏
「有機絶縁材料のトラッキング破壊とトリッキング破壊」 能登文敏氏
「開放型伝送線路と誘導無線・その応用」 杉 正男氏
「MOS トランジスタの物理とメモリ基礎技術」 武石善幸氏
「IC 開発の思い出」 垂井康夫 「光エレクトロニクスの歩みと共に」 稲葉文男氏
「縮小形ガス絶縁開閉装置の開発について」 富永正太郎
「ダイナモメータとその応用システム」 坪島茂彦
6月8日 於 早稲田大学 参加者 162名

[データⅡ-5-1]

「Recent Trends in Digital Signal Processing」 S.K.Mitra 氏

「VLSI Layout」 E.S.Kuh 氏

「Future of Relaxation Simulation Techniques」 T.N.Trick 氏

「Representation Theory for Non-linear Systems Applications」 I.W.Sandberg 疎

7月22日 於 帝国ホテル 参加者 84名

「Status and Future of IEEE」 C.A.Eldon, S.Kahne, J.B. Cruz, D.Bodson, R.C.Drew, B.Weinschel

「Robot Technology」 加藤一郎氏、米本完二氏

7月23日 於 帝国ホテル 参加者 78名

「新世代コンピュータ」 渕 一博氏、田中穂積氏、古川康一氏、内田俊一氏

「スーパーコンピュータ」 相磯秀夫氏、柏木 寛氏、三浦謙一氏

12月3日 於 農林年金会館 参加者 49名

「A Non-linear Model of the GaAs FET」 M.Ettenberg 氏

1986年度

2月18日 於 機械振興会館 参加者 40名

Fellow 記念講演会 (受賞者: 7名)

「アナログ・デジタル混在型 VLSI 研究の思い出」 永田 譲氏

「直流送電線からの水滴コロナとイオン流場について」 赤崎正則氏

「交換機設計におけるソフトウェア危機とデータフロー制御交換方式」 秋山 稔氏

「アモルファス磁性体」 ハセガワ リュウスケ氏

「最近の直流送電と高電圧サイリスタバルブ」 今井孝次二氏

「有限要素と二、三の応用」 加川幸男氏

「LSI 技術とエレクトロニクス産業」 渡辺 誠氏

4月5日 於 機械振興会館 参加者 64名

「Image Coding: The Search for Structure」 D.E.Pearson 氏

「Video Coding and Communications・・・The Challenges Ahead」 B.Prasada 氏

4月7日 於 京王プラザホテル 参加者 300名

「Spectrum Analysis in Acoustic Logging」 J.E.McClellan 氏

「Overview of LSI Array Processor Architecture for Signal and Image Processing」 S.Y. Kung 氏

「New Application of Digital Signal Processing in Communications」 M.Bellanger 氏

「Speech Enhancement, an Overview」 J.S.Lim 氏

「Overview of the ASSP-S Arden House Workshop on Frontiers of Speech Recognition」 S.E.Levinson

4月18日 於 農林年金会館 参加者 50名

「Motion Estimation from Stereo Image Sequences」 T.S.Huang 氏

5月20日 於 飯田橋会館 参加者 43名

「History of Microwave Communications in Japan」 S.Saito 氏

「Present Status of Microwave Technology and its Perspectives」 K.Tomiyasu 氏

7月21日

「Microwave Attenuation Measurements」 B.O.Weinschel 氏

[データⅡ-5-1]

「High Frequency Measurement Technology for Telecommunications」 O. Tunoda 氏

1987年度

1月22日 於 東京大学 参加者 52名

「Source Mechanism in Speech Production」 K.N.Stevnes 氏

3月3日 於 機械振興会館 参加者 80名

Fellow 記念講演会 (受賞者: 8名)

「VLSI-CAD 技術の課題」 後藤 敏氏

「2次元アレー光デバイス」 伊賀健一氏

「半導体レーザー “日米欧摩擦” 問題」 池上 徹彦氏

「光伝送方式の高度化」 木村 達也氏

「バイオテレメトリーの変遷」 松本伍良氏

「化学物半導体のヘテロ接合素子」 三杉隆彦氏

「超高周波通信技術」 宮内一洋氏

「電波の回折と抑制」 関口利男氏

4月15日 於 機械振興会館 参加者 107名

「Telematics in General」 W.Staudinger 氏

「Video Service in France」 H. Richardot, V. Michon 氏

「Office Document Architecture and Office Document Interchange Format」 上田 繁氏

4月20日 於 農林年金会館 参加者 42名

「The Present and Future of IEEE」 Henry L. Bachman 氏

6月9日 於 農林年金会館 参加者 42名

「Future of Telecommunications Signal Processing」 D. Messerschmitt 氏

11月22~24日 於 大阪国際交流センター 参加者 150名

IEEE COMSOC International Workshop on the Future Prospects of Burst /Packetized
Multimedia Communications

1988年度

2月16日 於 東京工業大学 参加者 105名

「Research in IC Layout」 E.S.Kuh 氏

「Trend in ICCAD-Block Design Reusability and Verification Techniques」 P. Huang 氏

2月19日 於 東京簡易保険郵便年金会館 参加者 47名

Fellow 記念講演会 (受賞者: 11名)

「計算とアナロジー」 深尾 毅氏

「総合電子材料とデバイス」 古川静次郎氏

「半導体中の電子波のコヒーレンス -最近の研究から- 」 生駒俊明氏

「Fellow を頂戴して: パワーエレクトロニクス技術、オプトエレクトロニクス技術」 岸 敬二氏

「GIS の開発歴史」 川口芳弘氏

「Seven S's 」 御子柴 宣夫氏

「私の電磁波回路の研究」 内藤善之氏

「電力系統における絶縁協調と電流協調」 尾崎勇造塩氏

「宇宙用 GaAs 太陽電池」 白幡 潔氏

「衛星通信および地上アンテナの開発」 武市吉博氏

「計測システムの Trichotomy」 寺尾 満氏

6月13日 於 乃木坂健保会館 参加者 46名

「音場および聴覚研究における最近の話題」 T. Houtgast 氏

7月21日 於 東京工業大学 参加者 70名

「Plans for LEOS Activities in the Coming Year」 P. W. Smith 氏

[データⅡ-5-1]

「High Capacity Lightwave Communications」 H. Kogelnik 氏

「Recent Advances in Photonic Networks」 I. P. Kaminow 氏

11月17日 於 東京大学生産技術研究所 参加者 22名

「Change Pumping of Interface States in MOS Transistors」 C. M. Penchia 氏

1989年度

3月1日 於 機械振興会館 参加者 53名

Fellow 記念講演会 (受賞者: 13名)

「EMC との出会い」 赤尾保男氏 (愛知工業大学) 「マシンビジョン技術」 江尻正員氏 (日立製作所)

「高温超伝導薄膜のミリ波表面インピーダンスの測定」 藤澤和男氏 (大阪産業大学)

「Logic Testing and Design for Testability」 藤原秀雄氏 (明治大学)

「ミリ波伝搬研究から衛星開発へ」 船川謙司氏 (宇宙開発事業団)

「回路とシステムに対する組み合わせた的方法」 伊理正夫氏 (東京大学)

「デバイスモデリングと特性予測」 倉田 衛氏 (東芝) 「電力技術の将来」 三井恒夫氏 (東京電力)

「SF6 ガスと GIS」 新田東平氏 (三菱電機) 「超 LSI 技術の諸限界」 徳山 巍氏 (筑波大学)

「パワーエレクトロニクスから FA へ」 大野榮一氏 (三菱電機)

「半導体光・電子デバイスのあゆみ」 多田邦雄氏 (東京大学)

「超高压電力ケーブルの絶縁設計の変遷と電気破壊」 依田文吉氏 (日立電線)

3月6日 於 機械振興会館 参加者 220名

「日本における ISDN サービスの動向」 北見憲一氏 「ISDN Services in Italy」 C. Gentite 氏

「ISDN in France」 J. Temime 氏

「ISDN Service in FRG」 P. Schneider 氏

9月11日 於 東京大学生産技術研究所 参加者 90名

「米国の AI 事情と日米研究方法の比較」 宗像俊則氏

12月9日 於 学会館赤門分館 参加者 64名

「The Basic Algorithms of Speech Recognition at IBM」 F. Jelinek 氏

「Continuous Speech Recognition from Phonetic Transcription」 S. Levinson 氏

1990年度

2月26日 於 機械振興会館 参加者 70名

Fellow 記念講演会 (受賞者: 16名)

「私の半導体デバイス研究から」 浅井彰二郎氏 (日立製作所)

「Small is beautiful - in a small antenna-」 藤本京平氏 (筑波大学)

「パターン認識技術の発展と実用化」 玄地 宏氏 (東芝)

「通信ネットワークにおける情報の理論」 韓 太舜氏 (専修大学)

「波動の理論と非線形関数解析」 堀内和夫氏 (早稲田大学)

「Optical fibers and microoptic componets」 川上彰二郎氏 (東北大学)

「衛星通信地球局における反射鏡アンテナ技術」 水澤丕雄氏 (金沢工業大学)

「空間ベクトル理論とその応用」 難波江 章氏 (長岡技術科学大学)

「(アイワ) デジタルオーディオの開発」 中島平太郎氏

[データⅡ-5-1]

- 「高能率符号化方式とファクシミリ」大西良一氏（三菱電機）
「VLSI に対する CAD の現状と今後」白川 功氏（大阪大学）
「ビデオ・テープ・レコーダの開発を振り返って」菅谷 汎氏（九州芸術工科大学）
「ハイビジョンの研究開発」杉本昌穂氏（NHK）
「磁性薄膜とメモリへの応用」杉田 愷氏（日立製作所）
「画像デバイスの発展と90年代の展望」竹本猛夫氏（日立製作所）
「NRD ガイドミリ波集積回路」米山 務（東北大学）
3月16日 於 東京大学生産技術研究所 参加者 39名
「IEEE の国際化」Carleton A. Bayless 氏（IEEE 会長）
4月23日 於 機械振興会館 参加者 54名
「Microstrip Antenna-Principales and Applications」Robert E. Munson 氏
12月3日 於 東京大学生産技術研究所 参加者 40名
「Logic Programming and European Machine Translation System」Harvey Abramson 氏
「Conceptual Level Specification and Use of Information Systems」Hannu Kangassalo 氏
12月20日 於 機械振興会館 参加者 12名
「IEEE 東京支部の現状と今度の展望」宇都宮敏男氏

1991年度

- 3月11日 於 学士会会館 参加 95名
Fellow 記念講演会（受賞者：14名）
「国際デジタル通信技術への貢献」天野 橋太郎氏（KDD）
「TV 信号の多次元信号処理とその応用」吹抜敬彦氏（日立製作所）
「平面アンテナの研究・開発」後藤尚久氏（東京工業大学）
「衛星通信におけるマイクロ波回路技術」橋本 勉氏（三菱電機）
「わが国の電気絶縁工学の近代化」家田正之氏（名古屋大学）
「集中システムから分散システムへ」井原廣一氏（日立製作所）
「過電圧と電力系統の絶縁信頼性向上」河村達雄氏（東京大学）
「ビジュアル・コンピュータの展望」國井利泰氏（東京大学）
「交換システムと通信網」城水元次郎氏（富士通）
「高気圧気体の放電と電界」宅間 薫氏（電中研）
「環境のパノラマ表現」辻 三郎氏（大阪大学）
「半導体レーザーから薄膜トランジスタまで」塚田俊久氏（日立製作所）
「光ファイバーケーブルの実用化」内田直也氏（古河電工）
「パワーエレクトロニクスと無効電力、有効電力の制御」矢野昌雄氏（三菱電機）
9月6日 於 東京工業大学 参加者 202名（会員76名）
「半導体量子構造の研究」江崎玲於奈氏
10月16日 於 機械振興会館 参加者 15名
「科学技術振興に関する日・米学術会議」報告 岡村総吾氏
10月30日 於 学士会会館 参加者 206名（会員191名）

[データⅡ-5-1]

「Global Localization & Local Globalization」盛田昭夫氏
12月18日 於 学士会会館 参加者 114名 (会員 106名)
「日米摩擦とわが国の教育及び科学技術政策に関する私見」小林久志氏

1992年度

3月5日 於 学士会会館 参加 52名

Fellow 記念講演会 (受賞者: 14名)

「電力系統における過度現象解析」雨谷昭弘氏 (同志社大)
「通信網技術と標準化」葉原耕平氏 (ATR) 「半導体超格子の変調分光」浜口智尋氏 (大阪大)
「超高压電力ケーブルについて」細川宏一氏 (古河電工)
「デジタル交換システムの実用化」池田博昌氏 (NTT)
「世界を結ぶ NO.7 進行方式」池田佳和氏 (KDD)
「符号化変調と2次元符号」今井秀樹氏 (横浜国大)
「アメリカ式国際学会の運営」川本博久氏 (シャープ)
「マイクロ波方式の発展と将来展望」桑原守二氏 (NTT)
「スパイラルとヘリカルアンテナの近代的設計について」中野久松氏 (法政大)
「気中長ギャップ放電とその応用」鈴木俊男氏 (電中研)
「高密度記録機器と誤り訂正」田中那磨氏 (帝京技科大) 「光磁気記録とその媒体」内山 晋氏 (名古屋大)
「マイクロ波用誘電材料の開発と共振器, フィルタへの応用」脇野喜久男 (村田製作所)
5月28日 於 東京グランドホテル 参加者 38名 (会員 35名) 共催: 電子情報通信学会
来日記念講演会 Merrill W. Buckley, Jr. (IEEE 会長)
7月21日 於 虎ノ門パストラル 参加者 126名 (会員 41名) 共催: 電子情報通信学会
「グループウェアの動向と課題」松下 温氏 (慶応大 教授)
10月23日 於 ATR 大会議室 (関西地区) 参加者 83名 (会員 22名)
「技術革新と経済成長の新しい分析枠組」今井賢一氏 (スタンフォード大学教授、同日本センター研究所所長)
12月7日 於 機械振興会館 参加者 72名 (会員 53名)
「日本の国際貢献は化学技術で」猪瀬 博氏 (学術情報センター所長、IEEE 東京支部長)

1993年度

7月12日 於 機械振興会館 参加者 86名 (会員 37名)

「IEEE Emanuel R. Piore Award 受賞記念-機械翻訳の世界の現状と将来-」長尾 真氏 (京都大学教授)
8月24日 於 学士会会館 参加者 34名 (会員 31名)
「IEEE, Region10 and the Tokyo Section」Martha Sloan 氏 (1993年 IEEE 会長)
9月30日 於 機械振興会館 参加者 40名 (会員 12名)
「IEEE Lamme Mdeal を受賞して-電気・電子工学の近代化と自ら歩んだ道からの提言-」
家田正之氏 (名古屋大学/ 愛知工業大学教授)
10月27日 於 機械振興会館 参加者 157名 (会員 84名)
「電気通信と半導体技術」西澤潤一氏 (東北大総長)

[データⅡ-5-1]

1994年度

3月17日 於 学士会会館 参加者 76名 (会員 69名)

「IEEE Alexander Graham Bell Medal を受賞して」猪瀬 博氏 (学術情報センター所長)

4月21日 於 機械振興会館 参加者 133名 (会員 64名)

「Microwave Tubes : Performance and Applications」Prof. John R. Pierce (スタンフォード大学名誉教授)

6月27日 於 早稲田大学理工学部 参加者 48名 (会員 4名)

「Digital Neural Networks Basic Theory and Applications」Prof. S.Y. Kung(プリンストン大学教授)

11月15日 於 機械振興会館 参加者 63名 (会員 43名)

「マイクロ・エレクトロニクスからナノ・エレクトロニクスへ」

菅野卓雄氏 (東洋大学学長、IEEE 東京支部支部長)

1995年度

3月3日 於 機械振興会館 参加者 143名 (会員 38名)

「マイクロ波通信技術開発の思い出」森田正典氏 (元 NEC)

5月22日 於 ゆうぼうと簡易保険ホール 参加者 142名 (会員 87名)

「Distance Learning」G.R.Johnson 氏 (NTU)

「North Carolina Multimedia Experiments」M. N. Ranson 氏 (Southern Bell)

11月2日 於 Panasonic AV&CC システムズスクウェア 参加者 190名 (会員 109名)

「インターネットと WWW」後藤滋樹氏 (NTT ソフトウェア研究所)

1996年度

1月16日 於 富士通川崎記念ホール 参加者 86名

「Development and Requirement for LEDs」Dr. Geoprge M. Craford (HP)

「青色、緑色の発行ダイオードの最近の動向と将来への展望」田口常正氏 (山口大学教授)

2月9日 於 富士通川崎工場 参加者 56名

「研究開発マネジメントの創造に挑戦して」植之原 道行氏 (NEC)

5月10日 於 富士通岡田記念ホール 参加者 98名

「Software Evolution in Cyberspace」Dr. Thomas Ray (Delaware University)

「Topics in Application of Artificail Life and Evolutionary Systems」Dr. Katsunori Shinohara(NTT)

5月28日 於 神奈川サイエンスパーク 参加者 43名

「European Effort to Make the Internet Secure」Prof. Gunter Muller (Universtat Freiburg)

10月17日 於 富士通岡田記念ホール 参加者 46名

「Photonics Technology for the Information Age」Dr. Waguih Ishak(HP)

10月25日 於 富士通岡田記念ホール 参加者 57名

「コンピュータゲームにおけるグラフィクス技術の現状とその将来展望」

山本 強 (北海道大学教授)

1997年度

2月20日 於 富士通プレゼンテーションルーム 参加者 80名

[データⅡ-5-1]

「半導体デバイスにおける量子効果」 榎 裕之氏 (東京大学教授)

7月28日 於 東京オペラシティタワー 参加者 86名

「World War I and the Birth of the Electronics Industry」 Dr. F. Nebeker (IEEE History Center)

9月18日 於 慶応義塾大学三田キャンパス 参加者 135名

「マルチメディア時代のネットワークとアプリケーション」 榎原一郎氏 (NTT ネットワークサービス推進部)

「慶応義塾大学における情報環境へマルチメディア共同利用実験の概要～」 徳田英幸氏 (慶応義塾大学教授)

11月28日 於 ATR 大会議室 参加者 59名

「Building Artificial Brands」 Dr. Hugo de Garos (ATR visiting researcher)

川人光男氏 (ATR 人間情報通信研究所)

1998年度

1月27日 於 広島大学理学部 参加者 32名

「My Software Experience-US Academia, Industry and Government」

Prof. C.V.Ramamoorthy(UCLA, Berkely)

2月18日 於 三菱電機本社会議室 参加者 46名

「Ⅲ族窒化物半導体の結晶成長と伝導性制御-青色発行を求めて-」

1998 Jack A. Morton Award 受賞者：赤碕 勇氏 (名城大学教授、名古屋大学名誉教授)

3月16日 於 横浜ランドマークタワー会議室

「移動通信の現状と今度の展開」 服部 武氏 (上智大学理工学部電気・電子工学課教授)：参加者 161名

「Real-Time Safety-Critical Computer Systems」 1997 President of IEEE Computer Society:

Prof. Barry W. Johnson (Uviv of Virginia)：参加者 87名

3月19日 於 慶応義塾大学三田 参加者 64名

「Recent topics in Electrical Engineering History Museum」

Dr. Bernard Finn(Curator of Smithsonian Museum)

6月15日 於 京都工芸繊維大学 参加者 24名

「工学倫理」 Prof. Heinz C. Luegenbiehl (Rose-Hulman Institute of Technology)

7月16日 於 アーバンネット大手町ビル 参加者 67名

「並列処理システム PIM とその応用」 安川清一氏 (安川電機 新規事業推進室 室長)

10月15日 於 東京大学生産技術研究所 参加者 113名

「マルチメディア情報媒介システム」 坂内正夫氏 (東京大学生産技術研究所 所長)

1999年度

2月18日 於 巣鴨スポーツセンター 参加者 89名

「光ファイバ通信用部品材料の進展-光ファイバ通信から波長多重通信への道のり-」

1998 IEEE David Sarnoff Award 受賞者：伊澤達夫氏 (NTT エレクトロニクス)

7月7日 於 ソニー品川テクノロジーセンター 参加者 105名

「Global Networking and the Challenges of Tele-immersion」

Thomas A. DeFanti,PhD.,(University of Illinois)

9月17日 於 東京大学 山上会館 参加者 88名

[データⅡ-5-1]

「How Has the Global Telecommunications Industry Changed Since The Mid-1980's」
Martin Fransmann, PhD (エジンバラ大学教授)

2000年度

3月17日 於 NEC 本社ビル 参加者 115名
「先端画像符号化への期待」 “Expectations on Advanced Image Coding”
2000 IEEE Charles Proteus Steinmetz Award 受賞者： 安田 浩氏 (東京大学教授)
5月25日 於 NTT 武蔵野研究開発センター 参加者 74名
「CORBA の Enterprise への適用に向けて：これからの10年」
Dr. Richard Mark Soley (Chairman and CEO, Object Management Group)

2001年度

3月16日 於 NTT 武蔵野研究開発センター 参加者 101名
「NTT DoCoMo におけるモバイルマルチメディアの展開と世界戦略」 森永範興氏 (NTTドコモ前副社長)
6月29日 於 東京大学 山上会館 参加者 89名
「TRON プロジェクトの20年」 坂村 健氏 (東京大学教授)
7月26日 於 東京工業大学 国際交流会館 参加者 116名
「分子デバイスとナノ回路、量子コンピューターティング」 Prof. Leon O. Chua (UCLA, Berkeley)
8月31日 於 早稲田大学 西早稲田キャンパス 参加者 122名
「21世紀における MPEG の発展」 Dr. Leonardo Chiariglione (Telecom Italia Lab.)

2002年度

3月14日 於 NTT 武蔵野研究開発センター 参加者 78名
「次世代半導体技術の展望～100nm の壁への挑戦」
2001 IEEE Robert N. Noyce Medal 受賞者： 佐々木 元氏 (NEC 会長)
10月29日 於 アルカディア市ケ谷 参加者 80名
「モバイルの技術と経営」 大星 公二氏 (NTTドコモ 相談役)
12月4日 於 東京工業大学 大岡山 参加者 78名
「放送技術の将来～家電機器を中心に～」 山田 幸氏 (パイオニア 常務執行役員)

2003年度

3月11日 於 新宿 NS ホール 大岡山 参加者 53名
「Insight for the New Paradigm -未来のしくみを、IT でつくる-」
2002 IEEE Frederik Philips Award 受賞者： 青木利晴氏 (NTT データ 社長)
10月8日 於 学士会館分館 参加者 68名
「Number Theory in Science, Engineering, and Art(科学・工学・芸術と整数論)」
Manfred R. Schroeder 氏 (ドイツ Goettingen 大学 名誉教授)
11月6日 工学院大学新宿キャンパス 参加者 124名
「ダンジブル・ビット：情報の感触・情報の気配」 石井 裕氏 (マセチューツ工科大学教授)

2004年度

3月2日 於 弘済会館 参加者 52名

「面発行レーザー～超並列フォトニクスの夜明け」

2003 IEEE Daniel E. Noble Award : 伊賀健一氏 (独立法人 日本学術振興会 理事)

9月28日 於 工学院大学 参加者 67名

「技術フロンティアの飽くなき挑戦」 関本忠弘氏 (国際社会経済研究所 理事長)

11月26日 於 工学院大学 新宿キャンパス 参加者 64名

「スミソニアン協会博物館の最近の動きと展示」 松本栄寿氏 (学習院大学、東京工業大学講師)

「From Little Machines to Big Themes : Clocks, Watches and Time at the Smithsonian's National Museum of American History」 Carlene Stephens 氏 (スミソニアン協会)

「Inventing Ourselves : Exploring Technology and the Human Body at the Smithsonian's Lemelson Center」 Maggie Dennis 氏 (スミソニアン協会)

関西支部

関西支部総会

1999年総会 : 1999年7月27日 (火) 15:00～16:00 住友ビル 12階 中会議室

2000年総会 : 2000年2月26日 (水) 15:00～16:00 住友ビル 11階 住友電工 112号会議室

2001年総会 : 2001年2月19日 (月) 15:00～17:00 住友ビル 11階 住友電工 112号会議室

2002年総会 : 2002年2月18日 (月) 15:00～17:00 住友ビル 11階 住友電工 112号会議室

2003年総会 : 2003年2月17日 (月) 15:00～17:00 中央電気倶楽部 317号室

2004年総会 : 2004年2月25日 (水) 15:00～17:00 中央電気倶楽部 215号室

2005年総会 : 2005年2月10日 (木) 15:00～17:30 中央電気倶楽部 215号室

関西支部主催講演会

1999年

7月27日 於 住友ビル 12階 中会議室

「Japan Council と Kansai Section の設立について」

熊谷 信昭 名誉教授 (大阪大学)

11月19日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 大会議室

「Structuring human-humanoid interaction so that people can intuitively command robots」

Prof. Rodney Brooks (MIT AI Lab. 所長)

2000年

1月14日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 大会議室

「From bits to information: machine learning theory and applications」

[データⅡ-5-1]

Prof. Tomaso Poggio (MIT AI Laboratory)

3月3日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 大会議室

「Natural Communication with Machines」

Prof. James L. Flanagan (Rutgers 大学副学長)

3月24日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 大会議室

「The Economics of Electronic Commerce」

Prof. Andrew B. Whinston (University of Texas, Austion)

7月7日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 大会議室

「Fault-Tolerant Group Communication Services: An Overview and an Approach」

Prof. Nancy Lynch (MIT)

8月11日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 大会議室

「The C/D Model: A Syllable-Based Representation of Conversational Speech」

Prof. Osamu Fujimura (The Ohio State University)

8月28日 於 ATR 地下大会議室

「Intentional Dynamics: Ecological Foundations of Intentional Systems」

Prof. Robert E. Shaw (University of Connecticut)

2001年

2月9日 於 ATR 地下大会議室 参加者 53名

「Developing and Evaluating Conversational Agents」

Prof. Dominic W. Massaro (Perceptual Science Laboratory, University of California, Santa Cruz)

3月8日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 大会議室 参加者 68名

「Social Interactions with Information Technology」

Dr. Byron Reeves (Professor, Department of Communication Director;

Center for the Study of Language & Information at Stanford University)

4月16日 於 大阪大学工学部電気系棟E 6-1 1 2 参加者 34名

「Algorithmic Complexity, Motion Estimation and a VLSI Architecture for MPEG-4 Core Profile Video Codecs」 Dr. Walter Stechele (Director of Research at the Institute for Integrated Circuits at the Technical University of Munich)

10月17日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 大会議室 参加者 47名

「Designing the Internet for a Networked Society」 Prof. Barry Wellman (University of Toronto)

10月17日 於 大阪大学 (吹田キャンパス) 先導的研究オープンセンター 参加者 49名

「Molecular and Nanocircuits」 Prof. Leon O. Chua (University of California, Berkeley)

11月14日 於 京都大学工学部 10号館 参加者 40名

「Functions of the Interspace」 Prof. Bruce R. Schatz (University of Illinois at Urbana-Champaign, COMMUNITY Architectures for Network Information SYSTEMS (CANIS) LABORATORY)

11月21日 於 京都大学工学部 10号館 参加者 33名

「Technologies of the Interspace」 Prof. Bruce R. Schatz (University of Illinois at Urbana-Champaign, COMMUNITY Architectures for Network Information SYSTEMS (CANIS) LABORATORY)

[データⅡ-5-1]

11月28日 於 京都大学工学部10号館 参加者40名

「Applications of the Interspace」 Prof. Bruce R. Schatz (University of Illinois at Urbana-Champaign, COMMUNITY Architectures for Network Information SYSTEMS (CANIS) LABORATORY)

2002年

1月30日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 参加者74名

「The early history of computer music at Bell Labs from 1957 to 1970 Social Interactions with Information Technology」 Prof. Max Mathews (CCRMA, Stanford University)

7月1日 於 中央電気倶楽部317会議室 参加者57名

「新IT時代における光ファイバー第3世代の光通信ー」

中原 恒雄 氏 (住友電気工業(株) 特別技術顧問)

8月16日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 参加者27名

「Strategies for Discovering Coordination Needs」

Prof. Edmund H. Durfee

(Department of Electrical Engineering and Computer Science, College of Engineering,
and in the School of Information, University of Michigan)

9月10日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 参加者150名

「Design, compilation, and preliminary analysis of the *‘Corpus of Spontaneous Japanese’*.」

前川 喜久雄 氏 (独立行政法人国立国語研究所 研究開発部門 第2領域長)

2003年

3月6日 於 京都大学 工学部 参加者28名

「Computational Linguistics and Digital Libraries」

Prof. Judith Clavans (コロンビア大学, Center for Research on Information Access 所長)

4月18日 於 国際電気通信基礎技術研究所 参加者61名

「Adaptive Echo Cancellation for Voice Signals」

Dr. Man Mohan Sondhi

(Avayalabs Research コンサルタント、ATR 音声言語コミュニケーション研究所 招聘研究員)

5月26日 於 大阪大学 参加者104名

「Taking it to the Streets: How Virtual Reality Can Change Mobile Computing」

Prof. Steaven K. Feiner (米国 Columbia University 教授)

10月1日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 参加者29名

「Query Languages for Semantic Web Applications: Requirement Specifications」

Prof. Francois Bry (ドイツ ミュンヘン大学)

10月14日 於 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 参加者237名

「素人発想、玄人実行：研究を楽しむ、わからせる」 金出 武雄 氏 (カーネギーメロン大学)

2004年

6月8日 於 国際電気通信基礎技術研究所 参加者91名

[データⅡ-5-1]

「Communication Between a Musician and Her Instrument」 Dr. Robert Moog (Moog Music, Inc.)

9月10日 於 大阪産業創造館 参加者 40名

「ゲーム産業と教育機関の連携をどう進めるのか？」

大学研究者とのリレーションシップづくり：2つの世界のインターアクション」

ジョン・ブキャナン氏 (エレクトロニック・アーツ社 ユニバーシティ・リサーチ・リエゾン)

11月19日 於 NTT コミュニケーション科学基礎研究所 参加者 40名

「ペタフロップス・コンピューティングの世界」 戎崎 俊一 氏 (理化学研究所 情報基盤研究部)

11月29日 於 国際電気通信基礎技術研究所 参加者 56名

「Biometrics: A Grand Challenge」 Prof. Anil K. Jain (Michigan State University)

12月10日 於 兵庫県立大学 参加者 60名

「ここまできた RFID 技術：無線タグビジネスの最新情報と今後の動向」 松村謙次氏(株式会社 KCS 社長)

12月10日 於 大阪大学 参加者 25名

「Content-based Image Retrieval in Digital Image Databases using Structure, Color and Texture」

J. K. Aggarwal (University of Texas)

2005年

1月25日 於 大阪大学大学院工学研究科 参加者 14名

「From Isolated Queues to Interacting Queues Is Burkes Theorem Correct?」

Professor Victor O. K. Li (The University of Hong Kong)

2月2日 於 京都大学工学部 参加者 25名

「Associative Computing for Embedded Processors」 Prof. Robert A. Walker (Kent State University)

5月9日 於 NTT コミュニケーション科学基礎研究所 参加者 43名

「音声情報圧縮とその応用」 板倉 文忠 名誉教授 (名古屋大学)

7月7日 於 住友クラブ 多目的ホール 参加者 32名

「学会の活性化について」 Marc T. Apter(IEEE RAB Vice President), Cecelia Jankowski(RAB Managing Director)

10月24日 於 NTT コミュニケーション科学基礎研究所 参加者 29名

「Knowledgeable Location-Based Services」 Prof. Stefano Spaccapietra

(Database Laboratory, EPFL, Swiss Federal Institute of Technology at Lausanne)

12月1日 於 Four Seasons Hotel Tokyo ギンコウルーム

IEEE マイルストーン賞 授賞式

広島支部

広島支部総会

1999年度：1999年4月30日 広島 鯉城会館

2000年度：2000年4月21日 広島 ASTER PLAZA (アステールプラザ)

2001年度：2001年3月14日 広島弥生会館 広島市

2002年度：2002年1月30日 広島市立大学会議室 広島市

2003年度：2003年2月6日 広島東方2001/広島市

[データⅡ-5-1]

2004年度：2004年1月16日 広島弥生会館

2005年度：2005年2月8日 広島市立大学・情報科学部別館

広島支部主催講演会

1999年

4月30日 於 広島 鯉城会館

「マルチメディア雑感」 市川忠男氏氏（広島大学教授）

8月30日 於 山口大学

「グローバルネットワーク技術の変遷と最近の動向」 山本英雄氏（KDD 研究所副社長）

9月28日 広島市立大学 小講堂

「CNP: A Dynamic Web Caching Protocol」 Ming T. Liu 氏（オハイオ州立大学 教授）

2000年

4月21日 於 広島 ASTER PLAZA（アステールプラザ） 参加者 26名

「未知への挑戦～ヒマラヤ初登頂」 平井 一正氏（神戸大学名誉教授）

6月14日 於 岡山大学 参加者 113名

「SF6（六フッ化硫黄）と地球温暖化」 宅間 董氏（京都大学大学院工学研究科 教授・IEEE Fellow）

12月28日 於 広島市立大学 参加者 20名

「Integrated System Interoperability Testing with Applications to VoIP」

David Lee 博士（Vice President of Bell Laboratories Research, IEEE Fellow）

2001年

3月14日 於 広島弥生会館

「機器・構造物の安全性に関わる2、3のトピックス」

幡中憲治氏（山口大学工学部機械工学科教授、機械工学会材料力学部門長）

2002年

1月30日 於 広島市立大学会議室（情報科学部棟別館 6階学術交流ラウンジ）

「大学教育改革に関する座談会」

オーガナイザ： 粟井 郁雄氏（山口大学工学部 教授）

パネリスト： 石井 伸司氏（中国新聞社 記者），杉田 義明氏（(株) SRA西日本 代表取締役社長）

野木 茂次氏（岡山大学工学部 教授），浜島 高太郎氏（山口大学工学部 教授）

5月9日 於 鳥取大学工学部大学院棟2階ゼミナール室（SCS 教室）

「鳥取環境大学における情報処理教育」 大筆豊氏（鳥取環境大学環境情報学部・教授）

「数理モデルと情報共有化技術を連携させた高信頼性ソフトウェア開発の一手法」

藤原隆次氏（富士通周辺機）

10月9日 於 山口大学工学部 D11 教室 参加者 100名

「技術者教育のあり方に関する国際パネル討論会」

パネリスト：（韓国） Prof. Dong Chul Park, Chungnam National University

[データⅡ-5-1]

Prof. Dong Il Kim, Korea Maritime University

(日本) 持田侑宏博士 (富士通研究所常務取締役 (JABEE 審査員))

浜島高太郎氏 (山口大学工学部教授 (JABEE 審査員))

司会(Mediator): 栗井郁雄 (山口大学工学部教授)

助言者(Advisor): Prof. Judith Ann Johnson, Yamaguchi University

2003年

2月6日 於 広島市、東方 2001 参加者 21名(IEEE 正会員9名, IEEE 学生員11名, その他1名)
「エネルギー貯蔵デバイスとしての二次電池の現状と新展開」

堤 宏守氏 (山口大学工学部応用化学工学科 助教授)

5月9日 於 島根大学総合理工学部3号館 2F 多目的ホール 44名(IEEE 会員14名、一般30名)
「都市エリア産学官連携促進事業 一宍道湖・中海エリア(環境)ーの概要」

野中資博氏 (島根大学教授 生物資源科学部 宍道湖・中海エリア(環境)プロジェクト第2グループリーダー)

12月5日 於 山口大学工学部 D11 講義室 (宇部市常盤台 2-16-1)

「情報と人間、そして文化について」市川忠男博士 (広島大学名誉教授)

2004年

1月16日 於 広島弥生会館 参加者 19名

「移動通信方式概要と新技術の動向」富里 繁氏 (岡山大学工学部助教授)

2005年

2月8日 於 広島市立大学 参加者 20名

「地域における理工系情報専門教育を考える」吉田典可氏 (広島大学名誉教授、広島市立大学名誉教授)

広島支部学生シンポジウム

第7回「次世代への種蒔き」

日時: 2005年11月26日(土),27日(日)

場所: 岡山大学 工学部

■基調講演 "地球環境問題と再生可能エネルギー" 講師: 林 農氏(鳥取大学工学部 教授)

■パネルディスカッション "列車事故にみる安全対策と工学倫理"

■テクニカルプレゼンテーション 160件

■研究開発紹介 9件

■高校生体験講座

第6回 「社会への架け橋」

日時: 2004年12月4日(土),5日(日)

場所: 松江市北陵町テクノアークしまね >>ソフトビジネスパーク島根

協賛: (財) マツダ財団, 島根大学総合理工学部, 広島大学大学院先端物質科学研究科, 中国電力技術研究財団 (順不同)

[データⅡ-5-1]

■基調講演

"ユビキタスネットワーク社会の実現を目指して" 講師： 角田良明氏(広島市立大学情報科学部 教授)

■パネルディスカッション "ネットワーク社会で守るべきもの"

■テクニカルプレゼンテーション 145 件

■研究開発紹介 12 件

■高校生体験講座

第 5 回 「社会への架け橋」

日時： 2003 年 12 月 13 日(土),14 日(日) 9:30-17:30

場所： 広島大学附属中高等学校 (広島市南区翠 1 丁目 1-1)

協賛： 広島大学先端物質科学研究科, 広島大学理学研究科, 広島大学 VBL, 山口大学 VBL, 財団法人中国電力技術研究財団ほか

■基調講演 "コンピュータはどこまで進化するか" 講師：大場充氏 (広島市立大学情報科学部 教授)

■パネルディスカッション "動き出す国立大学 ~未来への展望~"

■テクニカルプレゼンテーション 114 件

■研究開発紹介 21 件

第 4 回 「社会への架け橋」

日時：2002 年 12 月 5 日(木), 6 日(金)

場所： 山口県スポーツ文化センター (山口市)

協賛： 山口大学工学部、山口大学ベンチャービジネスラボラトリー、島根大学

■基調講演 題目：「大学の将来像」 講師：都倉 信樹先生 (鳥取環境大学副学長)

■パネルディスカッション "携帯電話の電磁波の人体への影響"

■テクニカルプレゼンテーション 104 件

■研究室展示 14 件

第 3 回 「学生の挑戦」

日時：2001 年 12 月 14 日(金), 15 日(土)

場所： 中国電力本社 (広島市中区)

協賛： (財)マツダ財団、IEEE 山口大学学生支部、(財)中国電力技術研究財団

■基調講演

題目：「IT の現状と将来展望」 講師：重田憲之氏 (総務省中国総合通信局 局長)

題目：「宇宙から見た地球の姿ー日本から世界へー」 講師：古濱洋治氏 (宇宙開発事業団衛星システム本部長地球観測システム本部長)

■パネルディスカッション "研究と発明", "情報通信の未来" 2 件

■テクニカルプレゼンテーション 102 件

第 2 回 「学生の挑戦」

日時： 2001 年 1 月 13 日(金), 14 日(土)

[データⅡ-5-1]

場所：広島市立基町高等学校（広島市）

協賛：（財）電気通信普及財団、（財）中国電力技術研究財団、（財）広島県産業技術振興機構

■基調講演

題目：「人や自然の奥深さに学ぼう」講師：葉原耕平（国際電気通信基礎技術研究所(ATR)顧問

題目：「BS デジタルの技術動向」講師：尾崎雄一(NHK 広島放送局視聴者センター(営業推進)受信技術

■パネルディスカッション ” 人や自然の奥深さに学ぼう”, ” IT が創造する新しい社会” 2件

■テクニカルプレゼンテーション 81件

第1回 「学生の挑戦」

日時：2000年1月18日(火), 19日(水)

場所：広島県立総合体育館（広島市）

協賛：（財）広島県産業技術振興機構、（財）中国技術振興センター、中国・四国インターネット協議会、ソフトウェア技術者協会、中国ソフトウェア CALS 研究会

■基調講演 “次世代移動通信への期待” 中嶋 信生氏（NTT 移動通信網株式会社 ワイヤレス研究所 取締役研究所長）

■パネルディスカッション ” 次世代移動通信への期待”, ” 学生によるベンチャー起業” 2件

■テクニカルプレゼンテーション 85件

札幌支部

札幌支部総会

1999年総会：1999年5月28日（火）15:00～15:30 北海道大学工学部電子工学科会議室 Q258

2000年総会：2000年6月5日（月）15:00～15:30 北海道大学工学研究科情報エレクトロニクス系新棟
11階会議室(11-05)

2001年総会：2001年2月13日（火）17:30～18:00 北海道大学工学研究科情報エレクトロニクス系新棟
11階会議室(11-05)

2002年総会：2002年1月29日（火）15:30～16:00 北海道大学工学研究科情報エレクトロニクス系棟
5F会議室(5-08)

2003年総会：2003年1月29日（金）16:30～17:00 北海道大学情報エレクトロニクス系棟 5階会議室
(5-08)

2004年総会：2004年1月30日（金）13:30～14:00 北海道大学情報エレクトロニクス系棟 5階会議室
(5-08)

2005年総会：2005年1月17日（月）13:00～14:00 北海道大学大学院情報科学研究科 5階会議室(5-08)

札幌支部主催講演会

2000年

10月22日 於 北海道工業大学

IEEE Sapporo Section Student Paper Contest

[データⅡ-5-1]

2001年

10月21日 於 北海道東海大学

IEEE Sapporo Section Student Paper Contest 発表論文数：17件

2002年

10月13日 於 北見工業大学

IEEE Sapporo Section Student Paper Contest 発表論文数：12件

2003年

10月19日 於 北海学園大学工学部

IEEE Sapporo Section Student Paper Contest 発表件数：15件

2004年

10月24日 於 公立ほこだて未来大学

IEEE Sapporo Section Student Paper Contest 発表件数：16件

2005年

10月23日 於 北海道大学

IEEE Sapporo Section Student Paper Contest 発表件数：9件

四国支部

四国支部総会

1999年度総会：1999年10月15日(金) 15:30 四国電力(株) 総合研修所 多目的ホール

2000年度総会：2000年10月14日(土) 12:30~13:00 高知工科大学

2001年度総会：2001年9月29日(木) 12:30~13:00 徳島大学工学部 K301 講義室

2002年度総会：2003年10月5日 詫間電波工業高等専門学校 第1講義棟1階

2003年度総会：2004年10月12日(日) 12:40~13:00 愛媛大学共通教育講義棟45番教室

2004年度総会：2005年9月25日(土) 12:40~13:00 徳島大学工学部共通講義棟5階 K503番

2005年度総会：2005年9月28日(水) 12:40~13:00 四国電力(株) 総合研修所第二会議室

四国支部主催講演会

1999年

4月28日 於 愛媛大学工学部4号館18番教室

「Detection and localization of abnormal changes in dynamic communications/information networks」 Miro Kraetzl, Ph.D. (DSTO, Australia)

5月24日 於 愛媛大学工学部新1号館6階601号室

「Magnetic Recording at One Terabit per Square Inch」 Roger Wood, PhD (IBM Storage)

[データⅡ-5-1]

Systems Division, USA)

2000年

10月24日 於 徳島大学 参加者 28名

「Integration and its technology of ceramic electron devices」 Dr. Katsuhiko Tanaka, 村田製作所

10月31日 於 香川大学 参加者 160名

「Mechatoronic technologies in next generation」 Dr. Toshi Fukuda, Nagoya Univ.

11月1日 於 香川大学 参加者 170名

「Animatronics and entertainment robots」 Dr. John Hollerbach

11月15日 於 愛媛大学 参加者 51名

「Multimedia and optical information & communication technology」 Dr. Yasumitsu Miyazaki,
Toyohashi Univ. of Technology

2001年

5月30日 於 徳島大学サテライト・ベンチャービジネスラボラトリー 参加者 25名

「Plasma based radical and electron sources and applications」 Prof. George Collin (Colorado State
University)

6月21日 於 香川大学研究交流スペース 参加者 55名

「外観検査におけるパターン認識」 北川克一氏(東レエンジニアリング)

10月216日 於 参加者 50名

「Recombination processes in InGaN/GaN LED structures」 Prof. Bo Monemar (Sweden Linkoping
University)

12月20日 於 香川大学工学部 参加者 25名

「Activities of the human communication technologies (HCT) Lab. At the University of British
Columbia」 Prof. Sidney Fels (The University of British Columbia)

2002年

3月1日 於 香川大学工学部 1207 会議室(1号館2階)

「レーザ、超音波を用いた計測事例の紹介 - ナノ立体形状計測技術、ボール回転計測技術など -」

石丸伊知郎氏(香川大学工学部知能機械システム工学科)

6月21日 於 香川大学工学部講義棟3階3302室

「新しいヒューマンインターフェース」 安村通晃氏(慶應義塾大学)

7月3日 於 香川大学工学部 3302 講義室(高松市林町2217-20) 参加者 23名

「無線信号処理の新しい流れ - ターボ原理とその広帯域移動通信への応用 -」

松本正教授(オウル大学無線通信研究所, フィンランド)

11月14日 於 徳島大学工学部 講義棟 K206 号室

「e-Learning の最近の動向」 林 敏浩 助教授 (佐賀大学理工学部)

11月29日 於 高知工科大学工学部講義棟 K101 教室

「HIKARIが拓くブロードバンド時代」 鈴木滋彦 氏 (NTT ソフトウェア株式会社代表取締役副社長)

2003年

1月15日 於 香川大学工学講義棟 3304 教室 参加者数 44名

「将来の移動通信システムの標準化と研究開発動向」 大津 徹 (NTT ドコモワイヤレス研究所)

7月17日 於 香川大学工学部 講義棟 3304 参加者数 22名

「Ultra Wide Band (UWB)のワイヤレス技術の基礎と最先端動向」 河野 隆二教授 (横浜国立大学大学院 工学研究院)

9月24日 於 愛媛大学工学部 4号館 2階 19番教室 参加者数 44名

「アンデスの巨大電波望遠鏡 ALMA ～宇宙の探求と最先端技術～」 阪本成一 (国立天文台助教授)

2004年

1月13日 於 香川大学 工学部 1208 講義室 参加者 27名

「Human-Centered Intelligent Multi-Layered Multi-Agent」 Prof. Rajiv Khosla (Business Systems and Knowledge Modelling Laboratory, School of Business, La Trobe University, Australia)

1月28日 於 香川大学工学部 3304 講義室 参加者 38名

「将来の移動通信技術」 山尾 泰氏 (NTT ドコモワイヤレス研究所主席研究員企画推進室長)

5月21日 於 香川大学 工学部 1208 講義室 参加者 24名

「Signal and Image Processing and their applications to land mine detections」 Nipon Theera-Umpon (タイ王国 チェンマイ大学)

7月3日 於 高知工科大学 C102 教室 参加者 104名

「ネアンデルタールの正体」 赤澤 威 (高知工科大学・教授, 他)

7月13日 於 香川大学工学部 3301 講義室 参加者 20名

「地上波デジタル放送への期待」 坪井和真氏 (岡山放送株式会社 放送運行局デジタル推進担当局長)

10月22日 於 香川大学 工学部 1208 講義室 (1号棟 2階) 参加者 23名

「Fuzzy Set and Its Applications」 Sansanee Auephanwiriyaikul (Lecturer, Chiang Mai University, Thailand)

11月12日 於 香川大学 教育学部 812 講義室 参加者 47名

「Evidence of making integrated circuits low-energy and management of technology」

Osamu Tomizawa (高知工科大学大学院起業家コース教授)

11月22日 於 徳島大学工学部日亜ホール 参加者 35名

「Introducing e-Learning with participatory design and evolutionary prototyping techniques」

Anders Morch (ノルウェー・オスロ大学 助教授)

11月12日 於 香川大学工学部 3202 講義室 参加者 76名

「Image recognition for human interface」 Helman Stern (Ben Gurion University、イスラエル)

2005年度

4月22日 於 愛媛大学工学部本館 6階 601号室 参加者 28名

「Research on Information Storage (Plymouth, and UK)」 Dr. M. Z. Ahmed 氏 (University of Plymouth)

9月20日 於 愛媛大学工学部 4号館 1F 18番教室 参加者 30名

[データⅡ-5-1]

「プラズマによる電子材料の合成と加工」 八田章光 博士（高知工科大学電子光システム工学科教授）

11月25日 於 徳島大学電気電子工学科知能電子ゼミ室 参加者 30名

「区分的に記述される非線形力学系の分岐解析」 高坂拓司 博士（福山大学工学部電気電子工学科講師）

11月30日 於 香川大学地域開発共同研究センター3階 セミナー室 参加者 20名

「フィンランドの大学における研究環境と研究状況」 梅林健太 博士（Centre for Wireless Communications, University of OULU Research Scientist）

仙台支部

仙台支部総会

1999年度総会：1999年7月21日

2000年度総会：2000年5月1日（月） 15:00～15:30 東北大学青葉記念会館 5階 大会議室

2001年度総会：2001年5月14日（月） 16:00～16:40 五橋会館

2002年度総会：2002年6月26日（水） 15:40～16:00 東北大学青葉記念会館 5階 大会議室

2003年度総会：2003年6月30日（水） 14:30～16:00 東北大学青葉記念会館 5階 大会議室

2004年度総会：2004年6月30日（火） 14:40～16:00 東北大学青葉記念会館 5階 大会議室

2005年度総会：2005年6月28日（火） 15:30～17:00 東北大学青葉記念会館 5階 大会議室

仙台支部主催講演会

2000年度

5月1日（月） 於 東北大学青葉記念会館 5階大会議室 参加者 68名

新 Fellow 記念講演 大内一弘氏（秋田県高度技術研究所長）

8月25日（金） 於 会津大学

～IEEEエジソン賞の受賞を記念して～

「21世紀に向けた創造性・独創性を高める大学教育」 西澤潤一氏（岩手県立大学長）

2001年度

6月22日（金） 於 秋田大学工学資源学部電気電子工学部

「EMC Research in University of Missouri at Rolla」 James Drewniak氏(Prof. UMR)

2002年度

6月26日（火） 於 東北大学青葉記念会館 参加者：140名

新 Fellow 記念講演

「次世代ブロードバンド無線アクセスの実現に向けて」 安達文幸氏（東北大学教授）

「電気音響工学との出会い」 中鉢憲賢氏（東北学院大学教授）

7月19日（金） 於 秋田大学工学資源学部

学術講演会

「High Frequency Read and Write Interconnect Modeling for Rigid Disk Drives」

2003年度

6月30日(水) 於 東北大学青葉記念会館 参加者: 60名

Daniel E.Noble Award 受賞記念講演

「エルビウム添加光ファイバ増幅器(EDFA)の研究開発とその光通信への応用」中沢正隆氏(東北大学教授)

新 Fellow 記念講演

「Toward COOL Chips and HOT Chips Based Upon General Purpose Pipelining」

中村維男氏(東北大学教授)

2004年度

6月30日(火) 於 東北大学青葉記念会館 参加者: 50名

新 Fellow 記念講演

「For contributions to the development quantum well infrared photodetectors and quantum dot photodetectors」 Victor I Ryzhii 氏(会津大学教授)

「For contributions on photonic switching technologies and systems」 行松健一氏(秋田大学教授)

2005年度

6月28日(火) 於 東北大学青葉記念会館 参加者: 32名

「スピントロニクス最先端を駆使するハードディスク技術」 佐橋政司氏(東北大学教授)

11月24日(木) 於 東北大学大学院情報科学研究科棟 2階大講義室 参加者: 44名

「The Meaning of the IEEE Computer Society's Taylor L. Booth Education Award」

中村維男氏(東北大学教授)

名古屋支部

名古屋支部総会

IEEE 名古屋支部設立総会: 1999年 4月28日(水) 15:00~17:00 名古屋大学工学部

1999年度総会: 2000年 3月25日(土) 18:00~19:30 ルブラ王山

2000年度総会: 2000年 12月27日(水) 18:00~19:30 名鉄グランドホテル

2001年度総会: 2001年 12月22日(土) 18:00~19:30 名鉄グランドホテル

2002年度総会: 2002年 12月18日(水) 18:00~19:30 名鉄グランドホテル

2003年度総会: 2003年 12月13日(土) 18:00~19:30 名鉄グランドホテル

2004年度総会: 2004年 12月23日(木) 18:00~19:30 名鉄グランドホテル

2005年度総会: 2005年 12月23日(金) 18:00~19:30 金沢全日空ホテル

名古屋支部主催共催講演会

1999年度

[データⅡ-5-1]

6月26日 名古屋工業大学 電気情報工学科3棟会議室
「エージェントモデルとその応用」 伊藤暢浩 (名古屋工業大学)

11月9日 豊橋科学技術大学 A2-201 講義室
「21世紀における原子力発電の役割と課題」 川口浩 (中部電力)

11月17日 名古屋大学 工学研究科1号館10階1023室
「The Development of Powerformer and Deryformaer in ABB」 Matts Leijon (ABB)

2000年度

1月20日 名古屋大学ベンチャービジネスラボラトリー 3F ベンチャーホール
「鉄道とコンピュータ - その過去、現在、未来」 富井規雄氏 (鉄道技術研究所)

3月7日 中部大学 技術・文化専門学校 名古屋校舎(鶴舞)
「インフォメーション・テクノロジーと新しい人間工学的デザイン」
川崎和男氏 (名古屋市立大学)

5月29日 名古屋大学ベンチャービジネスラボラトリー 3F ベンチャーホール
「Electrical Design of All-Dielectric-Self-Supporting Fiber Optic Cable」
Prof.Olsen(Washington State University)

9月22日 静岡大学情報学部 2号館1F 情13教室
「インターネットセキュリティ - その正しい理解と効果的な対策-」 山口 英氏 (奈良先端大)

2001年度

2月7日 CTI (株) 日本生命笹島ビル 7F 7-1・2 会議室
「個人認証とその周辺の最近の話題」 山田朝彦氏 (東芝)

9月28日 中京大学 豊田学舎 人工知能高等研究所 1階会議室
「IT時代のヒューマン・インタフェースを考える」 棚橋純一氏 (中部大学)

12月14日 名古屋大学人間情報科学研究科第1講義室
「e-Learning テクノロジーの現状と課題」 岡本敏雄氏 (電気通信大学)

2002年度

1月29日 岐阜大学 工学部 講義棟 23 教室
「自動車生産と情報処理」 小谷重徳氏 (トヨタ自動車)

2月15日 (株) シー ティー アイ 日本生命笹島ビル 5F 5-1,2 会議室
「コンポーネントベース開発/管理方式とその支援環境の現状と展望」
山城明宏氏 (東芝 ITソリューション)

2月26日 株式会社NTTデータ 東海支社2階研修室
「第3世代移動通信システムによるモバイルマルチメディアサービス」
中村典生氏 (NTTドコモ東海 モバイルマルチメディア推進本部)

10月16日 名古屋大学工学部 9号館 330 号室
「モバイルプロセス代数に基づくプログラミング言語 Nepi と、その実装の正しさの検証」

[データⅡ-5-1]

真野 健氏 (日本電信電話株式会社 NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

11月26日 名古屋工業大学6号館11階大会議室

「社会情報基盤を支えるユビキタスインタフェース」

間瀬 健二氏(名古屋大学 情報連携基盤センター)

12月18日 中京大学 名古屋学舎 15号館 (会議棟) 1階会議室

「顔の分かるコンピューター顔研究の最前線」 奥水大和氏 (中京大学 情報科学部)

2003年度

2月21日 大同工業大学 B棟第1講義棟 B0201

「仮説推論による知識処理の高度化ー 不完全な知識の下での適切な推論 方法とその高速化技術 ー」

加藤昇平氏 (名古屋工業大学 知能情報システム学科)

3月7日 中部電力 (株) 東桜会館 集会室

「音源探査装置 (音カメラ) の開発」 和田浩之氏 (中部電力)

3月24日 株式会社NTT データ東海支社 2階研修室

「日本における最近のICカード利用動向と世界の事例」 植田 稔氏 (日本ICカード推進協議会)

2004年度

1月31日 名城大学タワー75 15階レセプションホール

「無機・有機ハイブリット材料の開発とその応用」 信藤卓也氏 (富士ゼロックス)

2005年度

11月17日 (木) 名古屋工業大学6号館11階会議室

「Use of finite element methods in electromagnetic and thermal dosimetry」

Dr. Peter Wainwright (Health Protection Agency, England)

「A short history of the development of electromagnetic dosimetry at Chilton」

Dr. Peter Dimbylow (Health Protection Agency, England)

Society 関係の主要行事 (Chapter よりの申請による)

Society名 : Engineering in Medicine and Biology Society

- 開催日時 : 2003年10月20日～22日
- 開催場所 : Keihanna Plaza Hotel
- 会議名 : IEEE EMBS Asian-Pacific Conference on Biomedical Engineering 2003 >
- 参加者数 : 205 attendants from 22 countries

Society名 : Power Engineering Society

- 開催日時 : 2002年10月7日～10日
- 開催場所 : パシフィコ横浜
- 会議名 : IEEE/PES Transmission & Distribution Conference and Exhibition 2002 Asia Pacific
(アジアでの初めての開催)
- 参加者数 : 会議 約 800名 / 展示会: 約 5,000名

Society名 :SSCS Japan Chapter / SSCS Kansai Chapter共催

- 開催日時 : 2004年8月4日～5日
- 開催場所 : 福岡国際会議場 Fukuoka International Congress Center
- 会議名 : Asia-Pacific Conference on Advanced System Integrated Circuits 2004 (AP-ASIC
2004)
- 最終参加者数 : 180名

Society名:Engineering Management Society

- 開催日時 : 2004年 3月5日
- 開催場所 : 国際大学グローコム
- 会議名 : ナレッジ・マネジメントの展望
- 参加者数 : 60名
- 開催日時 : 2004年12月7日～8日
- 開催場所 : 東京 大丸内 ルビーホール
- 会議名 : Next Generation Management of Technology: Managing technology in tomorrow's
knowledge-based economy.
- 参加者数 : 70名

Society名: Information Theory Society

- 開催日時 : 1988年6月19日～24日
- 開催場所 : 神戸国際会議場, 神戸ポートピアアイランド
- 会議名 : 1988 IEEE International Symposium on Information Theory
- 参加者数 : 400名以上

- 開催日時 : 1993年6月4日～8日
- 開催場所 : 富士教育トレーニングセンタ, 裾野市、静岡
- 会議名 : 1988 IEEE Information Theory Workshop
- 参加者数 : 約100名

- 開催日時 :2003年6月29日～7月4日
- 開催場所 :横浜国際会議場 (Pacifico Yokohama), 横浜みなとみらい
- 会議名 :2003 IEEE International Symposium on Information Theory
- 参加者数: 約700名

Society名: Signal Processing Society

- 開催日時 :1986年4月7日～11日 ■開催場所 東京新宿 京王プラザホテル
- 会議名 :International Conference on Acoustics, Speech, and Signal Processing (ICASSP)
- 参加者数 :登録者数: 1364名(国内654, 国外710) 1337名(国内645, 国外692)
(一般1190, 学生147) 論文数: 776件(国内231, 国外545)
5日間にしてTutorial Dayを設けた最初のICASSP

Society名:Power Electronics Society

- 開催日時 :1988年4月 ■開催場所:京都・同志社大学
- 会議名 :19th Power Electronics Specialists Conference (PESC'88) >
- 参加者数 :400名

- 開催日時:1998年5月 ■開催場所:福岡・シーホークホテル
- 会議名 :29th Power Electronics Specialists Conference (PESC'98) >
- 参加者数:600名

International Telecommunications Energy Conference (INTELEC)が、1983年(東京)、1991年(京都)、2003年(横浜)で開催されています。

Society名 :Robots and Automation Society

***CIRA2003**

(2003 IEEE International Symposium on Computational Intelligence in Robotics and Automation)

- 開催日程 :2003年7月16日～20日 ■開催場所:神戸ポートピアホテル
- 実行委員長 :中内靖(筑波大学)
- 参加者数 :150名

***AIM2003**

(2003 IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics)

- 開催日程 :2003年7月20日～23日 ■開催場所:神戸国際会議場
- 実行委員長 :菅野重樹(早稲田大学)
- 参加者数 :300名

*** IROS2004**

(2004 IEEE/RSJ International Conference on Robots and Systems)

- 開催日程 : 2004年9月28日～10月2日 ■開催場所: 仙台国際センター
- 実行委員長 : 小菅一弘(東北大) プログラム委員長: 浅間一(東京大学)
- 論文講演数 : 659件, 参加者数: 1,055名(うち外国からの参加者 512名, 29カ国)
- ワークショップ・チュートリアル: 15件

○備考: ICRA (IEEE International Conference on Robotics and Automation) と並んで, RA-24 分野で最もメジャーな2つの国際会議のうちの一つで, 毎年開催されている. IROS2004 は, 論文講演数, 参加者数において, これまでの記録を塗り替え, そのステータスをさらに高めた業績により, 高く評価されている.

*** SSRR 2005 (IEEE International Symposium on Safety, Security and Rescue Robotics)**

Society名 EMC-S and EMC-S Tokyo Chapter

- 開催日時 : 1994年5月16日～20日
- 開催場所 : ホテル仙台プラザ/仙台市
- 会議名 : 1994 International Symposium on Electromagnetic Compatibility
(1994年環境電磁工学(EMC)国際シンポジウム)
- 参加者数: 544名

Society名 : Social Implications of Technology Society

- 開催日時 : 1997年7月11日、14日 ■開催場所 : 京都工芸繊維大学
- 会議名 : 工学倫理(Luegenbiehl教授講演会)
- 参加者数 : 30名程度

- 開催日時 : 1998年6月15日 ■開催場所 : 京都工芸繊維大学
- 会議名 : 工学倫理(Luegenbiehl教授講演会)
- 参加者数 : 50名程度

- 開催日時 : 2004年5月29日 ■開催場所 : キャンパスプラザ京都
- 会議名: SSIT Past-President来日記念講演会(Prof. Andrews 他)
- 参加者数 : 38名

- 開催日時 : 1997年7月11日、14日 ■開催場所 : キャンパスプラザ京都
- 会議名 : サイバー社会の脆弱性と対策(笠原正雄教授他)
- 参加者数: 27名

Society名:Oceanic Engineering Society

- 開催日時 :1998年4月15～17日 ■開催場所:東京
- 会議名 :The 1998 International Symposium on Underwater Technology (UT'98)
- 参加者数 :約200名

- 開催日時 :2000年5月23～26日 ■開催場所:東京
- 会議名 :The 2000 International Symposium on Underwater Technology (UT'00)
- 参加者数 :約160名

- 開催日時 :2002年4月16～19日 ■開催場所:東京
- 会議名 :The 2002 International Symposium on Underwater Technology (UT'02)
- 参加者数 :約130名

- 開催日時 :2003年6月25～27日 ■開催場所:東京
- 会議名 :The 3rd International Workshop on Scientific Submarine Cables and Related Technologies (SSC'03)
- 参加者数 : 約100名

- 開催日時 :2004年11月:9日～12日 ■開催場所:神戸
- 会議名 :OCEANS'04 MTS/IEEE /TECHNO-OCEAN'04 (OTO'04)
- 参加者数 :約700名

IEEE Medal Award 日本人歴代受賞者

IEE Awards	受賞氏名	所属先	受賞項目	受賞年度
<i>IEEE Medal of Honor</i>	江崎 玲於奈	IBM	IEEE Medal of Honor	1991
	関本 忠弘	NEC	IEEE Medal of Honor	2004
<i>IEEE Medals</i>	猪瀬 博	学術情報センター	IEEE Alexander Graham Bell Medal	1994
	中原 恒雄	住友電気工業	IEEE Alexander Graham Bell Medal	2002
	西澤 潤一	東北大	IEEE Edison Medal	2000
	富永 正太郎	菱光コンピュータシステム	IEEE Lamme Medal	1991
	家田 正之	名古屋大	IEEE Lamme Medal	1993
	山村 昌	日本学士院	IEEE Lamme Medal	2002
	佐々木 元	日本電気	IEEE Robert N. Noyce Medal	2001
	井深 大	ソニー	IEEE Founders Medal	1972
	尾見 半左右	富士通研	IEEE Founders Medal	1979
	米澤 滋	電電公社	IEEE Founders Medal	1982
	小林 宏治	日本電気	IEEE Founders Medal	1984
	盛田 昭夫	ソニー	IEEE Founders Medal	1994
	板倉 文忠	名城大学	IEEE Jack S. Kilby Signal Processing Medal	2005
	森田 正典	日本電気	IEEE Medal for Engineering Excellence	1995
	森井 清二	関西電力	IEEE Medal for Engineering Excellence	1999
末松 安晴	国立情報学研究所	IEEE James H. Mulligan, Jr. Education Medal	2003	
<i>IEEE Technical Field Awards</i>	岩崎 俊一	東北大	IEEE Cleo Brunetti Award	1989
	塚田 裕	京セラ SLCテクノロジー	IEEE Components, Packaging and Manufacturing Technolgy Award	2005
	中島 平太郎	ソニー	IEEE Masaru Ibuka Consumer Electronics Award	1989
	鷺塚 諫	シャープ	IEEE Masaru Ibuka Consumer Electronics Award	1992
	藤尾 孝	姫路工業大学		
	林 宏三	元シャープ		
	杉本 昌穂	パイオニア	IEEE Masaru Ibuka Consumer Electronics Award	2002
	森園 正彦	ソニー		
	二宮 佑一	日本放送協会		
	今村 修武	東ソー	IEEE Reynold B. Johnson Information Storage Award	1996
	江崎 玲於奈	IBM	IEEE Morris N. Liebmann Memorial Award	1961
	板倉 文忠	名古屋大	IEEE Morris N. Liebmann Memorial Award	1986
	冷水 佐壽	大阪大	IEEE Morris N. Liebmann Memorial Award	1990
	三村高志	富士通研		
	西澤 潤一	東北大	IEEE Jack A. Morton Award	1983
菅野 卓雄	東大	IEEE Jack A. Morton Award	1992	
塚田 俊久	日立	IEEE Jack A. Morton Award	1993	

IEEE Medal Award 日本人歴代受賞者

IEE Awards	受賞氏名	所属先	受賞項目	受賞年度
<i>IEEE Technical Field Awards</i>	赤崎 勇	名城大	IEEE Jack A. Morton Award	1998
	中村 修二	日亜化学		
	泉 勝俊	大阪府立大	IEEE Daniel E. Noble Award	2001
	小林 宏治	日本電気	IEEE Frederik Philips Award	1976
	稲葉 清右衛門	ファナック	IEEE Robotics & Automation Award	2005
	増原 利明	日立	IEEE Donald O. Pederson Award in Solid-State Circuits	1990
	伊藤 清男	日立	IEEE Donald O. Pederson Award in Solid-State Circuits	1993
	安田 浩	東大	IEEE Charles Proteus Steinmetz Award	2000
	中原 恒雄	住友電気工業		
	John Midwinter	ロンドン大学	IEEE Eric E. Sumner Award	*2002
	山村 昌	東大	IEEE Nikola Tesla Award	1982
	角南 英夫	日立	IEEE Cleo Brunetti Award	1991
	南部 隆文	ソニー		
	井田 克	ソニー	IEEE Cleo Brunetti Award	1993
	掃部 義幸	ソニー		
	武田 英次	日立	IEEE Cleo Brunetti Award	1994
	小柳 光正	東北大	IEEE Cleo Brunetti Award	1996
	猪瀬 博	東大	IEEE Award in International Communication	1982
	宮 憲一	国際電電	IEEE Award in International Communication	1987
	野坂 邦史	国際電電	IEEE Award in International Communication	1996
	金子 尚志	日本電気	IEEE Award in International Communication	1999
	岡村 総吾	東京電機大	IEEE Award in International Communication	2001
	舛岡 富士男	東北大	IEEE Morris N. Liebmann Memorial Award	1997
	横山 直樹	富士通研	IEEE Morris N. Liebmann Memorial Award	1998
	長尾 真	京都大	IEEE Emmanuel R. Piore Award	1993
	甘利 俊一	東大	IEEE Emmanuel R. Piore Award	1997
	木原 信敏	ソニー	IEEE David Sarnoff Award	1982
	末松 安晴	東工大	IEEE David Sarnoff Award	1986
	林 巖	光技研	IEEE David Sarnoff Award	1988
	榊 裕之	東大	IEEE David Sarnoff Award	1996
	伊澤 達夫	日本電信電話	IEEE David Sarnoff Award	1998
	永田 穰	日立	IEEE Frederik Philips Award	1994
	植之原 道行	日本電気	IEEE Frederik Philips Award	1996
	青木 利晴	NTTデータ	IEEE Frederik Philips Award	2002
	小宮 啓義	東京精密	IEEE Frederik Philips Award	2005
	鈴木桂二	日本放送協会	IEEE Vladimir K. Zworykin Award	1967
	宮岡 千里	ソニー	IEEE Vladimir K. Zworykin Award	1974
	後藤 直宏	日本放送協会	IEEE Vladimir K. Zworykin Award	1981

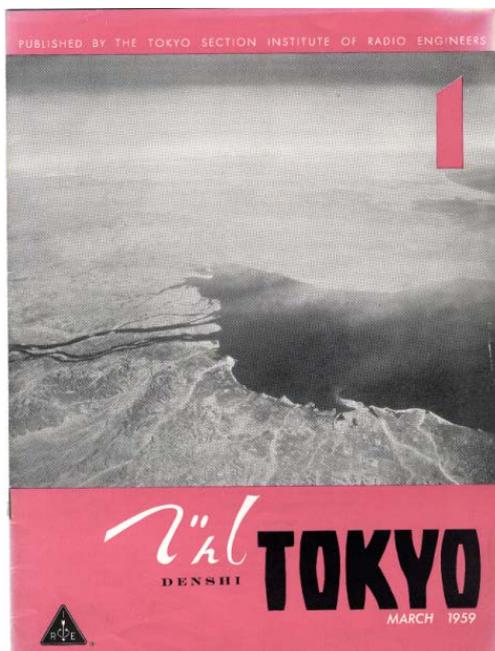
IEEE Medal Award 日本人歴代受賞者

IEE Awards	受賞氏名	所属先	受賞項目	受賞年度
<i>IEEE Technical Field Awards</i>	蛸崎 武廣	ソニー	IEEE Vladimir K. Zworykin Award	1984
	窪田 泰治	ソニー		
	澤崎 憲一	東芝	IEEE Vladimir K. Zworykin Award	1986
	中沢 正隆	東北大学	IEEE Daniel E. Noble Award	2002
	伊賀 健一	日本学術振興会	IEEE Daniel E. Noble Award	2003
<i>IEEE Prize Paper Awards</i>	古賀 利郎	九州大	IEEE W.R.G. Baker Prize Award	1969
<i>IEEE Corporate Recognitions</i>	ソニー		IEEE Corporate Innovation Recognition	1987
	セイコーエプソン		IEEE Corporate Innovation Recognition	2002
	NTTドコモ		IEEE Corporate Innovation Recognition	2005
<i>IEEE Honorary Membership</i>	山下 英男	東大	IEEE Honorary Member	1985
	盛田 昭夫	ソニー	IEEE Honorary Member	1991
	水野 博之	松下電工	IEEE Honorary Member	1996
	大賀 典雄	ソニー	IEEE Honorary Member	2000
	佐々木 正	国際基盤研究所	IEEE Honorary Member	2003

~IEEE Milestone 歴代受賞~

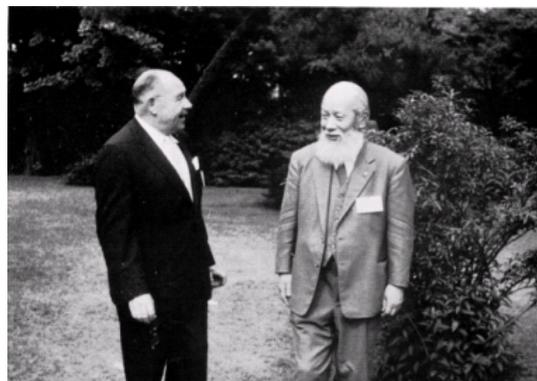
1995年 Directive Short Wave Antenna
 2000年 Mount Fuji Radar System
 2000年 Tokaido Sinkansen (Bullet Train)
 2004年 Electronic Quartz Wristwatch
 2005年 Pioneering Work on Electronic Calculatots

● でんし Tokyo 創刊号 (1959年3月発行)



表紙

(成層圏気球から伊勢湾北部を撮った赤外線写真)
東北工業大学樋口龍雄教授のご好意により同大学
図書館に保管されていたものからコピーした。



Mr. Harold B. Richmond, Fellow, and Mr. Hideoyagi Yagi, Fellow

Dr. Yagi is one of Japan's pioneers in the field of telecommunications and is world-famous for his "Yagi Antenna". The establishment of the Tokyo Section of IRE was largely due to his efforts and those of Dr. Niwa, Past Vice President of IRE. Mr. Richmond owned a complete set of the Proceedings of the IRE from the first issue onward. After consultation with Dr. Harold L. Hazen, Dean of the Graduate School of Massachusetts Institute of Technology, Mr. Richmond decided to present these valuable volumes to the University of Tokyo. During the spring of 1958 Mr. and Mrs. Richmond visited Japan and were the honored guests of the President of the University of Tokyo and Mrs. Kaya at a garden party on the University Campus.

Harold. B. Richmond 氏と八木秀次氏
(Richmond 氏が IRE Proceedings を
東京大学に寄贈した時の写真)
「でんし Tokyo」(No.1) 2 ページのコピー

● Tokyo Bulletin 第1号 (2000年5月発行)

IEEE Tokyo Bulletin

Vol2000-01 May 31, 2000

[Tokyo Bulletin Vol2000-01 English](#) < [Tokyo Bulletin バックナンバー](#) < [IEEE 東京支部トップページ](#)

総会ならびに講演会、盛況裏に終了

3月17日(金)午後、港区芝のNEC本社ビル地下講堂において、1999年度東京支部総会・講演会、同ビル地下の多目的ホールにおいて懇親会がそれぞれ開かれました。支部総会では2000年度の事業計画ならびに予算案が審議・可決され、恒例の新フェロー紹介のあと、3rd Millennium Medalの支部推薦受賞者が紹介されました。

[当日の資料の抜粋](#)

新フェローへの証書伝達式

総会にひきつづき、2000年度新フェローへの証書が手渡されました。佐々木副支部長によるCitationの紹介を受けて、各フェローは辻井支部長から額入りの証書を手交されました。恒例の新フェローによるスピーチはお子様の誕生と相前後した二重の喜びといえおめでとうございます。会場は和やかな雰囲気になりました。

[新フェローのお名前およびCitationのリスト](#)

IEEE 3rd Millennium Medal 授与式

紀元2000年を記念し、全世界で3千人に贈られる IEEE 3rd Millennium Medal 授与式が行なわれました。東京支部からは37名の受賞者が選ばれ、辻井支部長からメダルが手渡されました。

[受賞者
支部推薦以外の日本人受賞者](#)

● IEEE Organization

